

宇宙海賊好きの男がシ
ンフォギアの地球に
やって来た

アスハラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

海賊戦隊ゴーカイジャーと戦姫絶唱シンフォギアとコラボしてみました。スーパー戦隊宇宙にでた奴等やガンダムオルフェンズに出た奴等ウルトラマン宇宙怪獣出す予定です。

目次

宇宙海賊	1	新入り1	94
戦争1	9	新入り2	101
戦争2	16	新入り3	113
戦争3	31	新入り4	123
海賊VS商人1	44	新入り5	131
海賊VS商人2	52	新入り6	141
海賊VS商人3	59	交渉1	154
海賊VS海賊1	70	交渉2	168
海賊VS海賊2	75	海賊VS暗黒宇宙人1	178
別れまた会う日まで	84	海賊VS暗黒宇宙人2	184
原作開始		海賊VS暗黒宇宙人3	191
		海賊VS怪獣1	198
		海賊VS怪獣2	210

海賊VS怪獣3	219
学校1	232
マシンワールド1	241
学校2	249
マシンワールド2	257
共演1	263
マシンワールド3	271
合流1	287
合流2	297

宇宙海賊

「宇宙」

この広大な宇宙の中ある一つの赤い船が宇宙を漂っていた。

「???／船内」

メカ鳥

『マーベラスもうすぐ“地球”に着くよ』

カチャカチャ

マーベラス

「ちよつと待つてろもうすぐメシが出来る“トリイ”“セレナ”を呼んで来い」

トリイ

『全く鳥使いがあらいな』

セレナ

「ふああ〜おはようございますマーベラスさん
（ムニヤムニヤ）」

マーベラス

「おう、んじゃ
」

ビービー

マーベラス、セレナ

「. . .」

トリイ

『マーベラス！敵船だよ！』

パ

男

『よお、キャプテンマーベラス. . . て、何メシ食ってんだ!？』

マーベラス

「腹減ってたんだメシ食うのは当たり前前だろうがよ（モグモグ）」

セレナ

「そうですねよ（モグモグ）」

マーベラス

「で、何の用だ。ブルワーズ。船長。ブルック・カバヤン。」

ブルック・カバヤン

『ああ、本題に入らせてもらおうぜ』

マーベラス

「テメエの配下になれとかだつたらお断りだぜ（ガツガツ）」

ブルック・カバヤン

『そんなに嫌がるなよお前にとつては悪い話じゃ無いだろ？』

マーベラス

「テメエのやり方は気に入らねえ」

ブルック・カバヤン

『やり方……？ああ、〃ヒューマンデブリ〃の事か』

セレナ

「（ジド）」

トリイ

『セレナ』』

マーベラス

「どうせお前の事だどうせこの〃ゴーカイガレオン〃のエンジンがほしいんだろ？」

ブルック・カバヤン

『だったら話は早いお前の船ゴーカイガレオンを寄越せ！』

マーベラス

「何十回言うが断るって言ってるだろ欲しいなら力尽くまで奪いに来い」

ブルック・カバヤン

『交渉は決裂だなマーベラス』

プツ

マーベラス、セレナ

「(交渉してたのか?)」

マーベラス

「やっぱ彼奴馬鹿だな。俺達海賊にまた喧嘩を売るなんてな」

トリイ

『これで二十回目♪』

セレナ

「懲り無いですね。トリさん」

トリイ

『分かってるよマーカー準備いつも通りやっておいたよ』

マーベラス

「記憶喪失なのにお人好しすぎるぞ」

セレナ

「マーベラスさん人の事言えないですよ(ボソ)」

トリイ

『確かに(ボン)』

マーベラス

「何か言ったか？」

セレナ

「いゝえ」

トリイ

『なぐんにも言ってなぐい』

マーベラス

「まあいい戦闘準備だ」

トリイ

『リヨウカゝイ』

マーベラス

「ブルック・カバヤン覚悟しろよ(ボキバキ)」

トリイ

『よっ！悪者！(仮)』

セレナ

「よっ！悪党！（仮）」

マーベラス

「仮やめろ！」

「数時間後」

「宇宙」

勝負を挑んだブルック・カバヤンの宇宙船はボロボロだった。

ブルック・カバヤン

「ち、チクショーマーベラスのヤロー！！」

ブルック・カバヤンの手下1

「負けると思ってたんだよね」

ブルック・カバヤンの手下2

「俺海賊足洗おうかな？」

ブルック・カバヤンの手下3

「俺も」

ブルック・カバヤンの手下4

「あ、銀河連邦だ。自首しよ」

「宇宙」

「ゴークイガレオン／コクピット」

マーベラス

「たく、勝てないの分かってるのに懲りない連中だ」

トリイ

『マーベラス銀河連邦に連絡しといたよ』

マーベラス

「そうか。それにしてもこれで何個目の地球だ？」

セレナ

「すみませんマーベラスさん私がいた地球探しをしてくれて」

マーベラス

「気に入んな色々な地球巡りをして上手いメシ食べればいい♪」

トリイ

『（素直じゃないな）』

マーベラス

「それに新しいお宝見つかる可能性もあるかもしれないしな」

セレナ

「フフ、マーベラスさんらしいですね♪」

マーベラス

「それにこの地球アイツの情報からじゃ、スーパー戦隊”はいないらしからな”

セレナ

「そうなんですか私はマーベラスにはおとりますけど、”ダイレンジャー”、”カクレンジャー”、”ハリケンジャー”、”デカレンジャー”、”マジレンジャー”、”ゲキレンジャー”、”シンケンジャー”のいた地球で鍛えて貰いましたから足手まといにはなりませんよ（フンス）」

マーベラス

「まあ、期待はしとくぜ目標地球大気圏シールド起動」

トリイ

『起動起動♪』

今、地球に冒険とロマンを求めて二人の男女が現れたその名も、

ジャー

海賊戦隊ゴーカイ

戦争1

「地球／とある国」

マーベラス

「たく、海賊相手に何度も攻撃してくるなんていい度胸だなお前等」

●男達

『』

●マーベラス

「ま、もう聞こえねえか。●」

マーベラスの後ろに軍服を着ていた男達の死体の山が出来ていた。

セレナ

「マーベラスさ〜ん終わりました〜?」

マーベラス

「とつくに終わった」

セレナ

「流石マーベラスさんですね」

トリイ

『さあさあ皆並んで並んでキャプテンマーベラス特性カレーとパンがあるよ〜♪』

マーベラス

「ガキ共ちゃんと並べ!! (カツ)」

セレナ

「マーベラスさん怒鳴る前にその返り血シャワーで洗い流してくださいね」

マーベラス

「チツ、分かった。」

セレナに言われたマーベラスは軍人を殺し返り血がマーベラスに付いていたマーベラスはゴーカイガレオン船にシャワーを浴びに向かった。

少女

「あれ? セレナ、マーベラスは? (キョロキョロ)」

マーベラスを探してた銀髪の女が訪ねていた。

セレナ

「マーベラスさんはシャワーを浴びに向かいましたよ〜はいどうぞ熱いから気よ付けて下さいね〜♪」

避難者1

「ありがとうございますありがとうございます（ペコペコ）」

セレナ

「いえいえ、お気になさらず♪」

少女

「ありがとうございます 雪音 クリス”さん”」

雪音 クリス

「クリスでいいって言ってるだろ？」

マーベラス

「あくさつぱりした〜」

セレナ

「あ、マーベズイブグウェイヤー!?! (// // // //)」

マーベラス

「何いってんだお前？」

雪音 クリス

「マーベラス!?!お前なんで上裸なんだよ!?!」

マーベラス

「ゴーカイガレオン内に血の腐臭させる訳にはいかねえから外の空気吸いに来た。それ

より誰かメシの配膳変わってやれ」

雪音 クリス

「え？」

セレナ

「#!.\$@々&?*□??☆★◀▲」 ↑マーベラスの上半身裸を見て壊れた

トリイ

『わあ?!セレナが壊れた!?!』

雪音 クリスママ

「あ、私が変わります」

雪音 クリス

「あ、ママ」

雪音 クリスママ

「クリス、マーベラスさんと一緒にいるのはいいけど御迷惑かけちゃ駄目よ」

雪音 クリス

「ハイ」

マーベラス

「何で俺が面倒見るの決定事項何だよ？」

雪音 クリス

「まあまあ、いいじゃねえか」

マーベラス

「いいわけねえだろうがたくつ」

雪音 クリス

「マーベラス行く前に上着とけ。で、マーベラス何処に行くんだ？」

マーベラス

「余計なお世話だ付いて行くのは勝手だが吐いたり目を逸らすなよ」

「とある国／軍人の死体場所」

雪音 クリス

「マーベラス何で此処に？」

マーベラス

「俺に負けた奴等の顔を拝みに来た」

雪音 クリス

「何で拝みに？」

マーベラス

「こいつらから逃げない為だ」

雪音 クリス

「逃げない為」

マーベラス

「こいつら死んでる癖に夢に出るんだよ」

雪音 クリス

「マーベラス」

マーベラス

「目を開けたらこいつらが俺が手に掛けたこいつ等がいる。雪音お前に何時もの日常からこの国に来たことで地獄に変わった目を閉じて開けたら何があった？」

雪音 クリス

「何時もの日常から地獄に変わっちゃったでも」

マーベラス

「？」

雪音 クリス

「お節介なセレナとキャプテンマーベラスが来てくれたお陰で地獄から少しだけけど」

救って来れた」

マーベラス

「セレナが我儘言つたお陰だ」

雪音 クリス

「それでもありがとうな」

マーベラス

「チ海賊に礼を言うんじゃねえよ（//」

雪音 クリス

「それにしてもいつ見ても信じられ無いな」

マーベラス

「？」

雪音 クリス

「空から宇宙船が出て来るなんてあの時は驚たな」

戦争2

「マーベラスが地球に降りる前」

ゴーカイガレオンが地球に降りる前にとある国がある兵隊達に虐殺されていた。

ダダダ!!

兵士

「全員皆殺しにしろー!」

雪音 クリス。パ。パ

「クリスこつちだ!」

雪音 クリス

「はあ、はあ、パ、パ、ママは!?!」

雪音 クリス。パ。パ

「何!?!」

雪音 クリス。ママ

「はあはあ。」

雪音 クリス

「ママ!？」

雪音 クリスマママ

「ふ、二人共先に。」

ガチャ!

雪音 クリス

「ママ!？後ろ!？」

雪音 クリスマママ

「!？」

雪音 クリスマママに兵隊に銃口を向けられもう駄目だと思つた次の瞬間!

ゴオオオオオ!

ドオオオオオオン!

雪音 クリス

「わあ!？な、何だ!？空から爆発音？」

雪音 クリス。ハハ

「な、何だあれは。」

雪音 ？。グリスママ

「赤い船。」

「ゴーカイガレオン／船内」

マーベラス

「地球に到着。いいがどうやら虐殺中の様だなセレナ、今回はお前のお人好しは通用しないからな」

セレナ

「分かってます」

マーベラス

「トリイお前はゴーカイガレオンでこの国の外にいる戦車部隊とその他を大砲で撃て」

トリイ

『リヨウカクイ』

マーベラス

「殺しは俺の専門だがお人好し救出はお前に任せるぞ。セレナ」

セレナ

「はい！」

マーベラスはそう言っ外に出た。

「とある国／国内」

兵士

「グエ!? (グシャ!!)」

マーベラス

「ムカつく事してやがるな。」

「マーベラスは雪音 クリスママを撃とうとした兵士の上に着地した。」

雪音 クリス親子

「」

兵士1

「な、何だ貴様!？」

マーベラス

「宇宙海賊だ。」

雪音 クリス

「宇宙海賊?」

兵士2

「宇宙海賊が何の」

ドン！

ドサ

兵士2は言葉を言う前にマーベラスが持っていたゴーカイガンで頭を撃たれ即死した。

マーベラス

「何の用。別に用なんてねえオメエらのやり方が気に入らねえ」

兵士3

「そ、そんな理由で」

マーベラス

「お前らだつて下らねえ理由で弱い者を殺してんじゃねかだったら俺がこれからお前等を虐殺したつて文句はねえだろ？」

兵士隊長

「何をしている奴は一人だ海賊だろうがなんだろうが殺せー！」

ズドオオオオオン！！

ドオン！ドオン！

兵士隊長

「な、何だ!？」

ゴーカイガレオンが戦車部隊を砲撃していた。

マーベラス

「お前等外にいる戦車部隊と人間共連絡取れなくなったぞ」

兵士隊長

「な、何!？」

ザザ

ギャー!

タ、タスケ…

プルル

マーベラス

「何だトリ? ゴミ掃除終わったのか?」

「ゴーカイガレオン／船内」

トリイ

『トリじゃなくてトリイだよあともう少しで終わるよマーベラスの所は後』

『

「とある国／国内」

ザシュードン！

マーベラス

「30中10だ」

ゴリリ

兵士1

「た、たす」

ドン！

マーベラス

「いや、9になった」

マーベラスはトリイと電話をしながら流れ弾を避けながら兵士達をゴーカイサーベルで斬ったりゴーカイガンで撃つたりしてマーベラスに命乞いをした兵士を簡単に撃ち殺した。

「ゴーカイガレオン／船内」

トリイ

『そ、頑張つてねマーベラス♪』

「とある国／国内」

マーベラス

「あいよ」

パチン

マーベラス

「んで、残り5か」

兵士3

「お、お前俺達に何のうら」

ドン！

ドサ

マーベラス

「恨み何てねえよ俺は強者イジメが趣味でなお前らこうなるのが良かったんだろ」

兵士 4

「い、嫌だた、助け」

ドン！

ドサ

マーベラス

「それに俺に命乞いする奴はもつと嫌いだな」

兵士隊長

「う、動くな！」

マーベラス

「？」

雪音 クリス

「うう。」

雪音 クリス親子

「クリス!!??」

兵士隊長は拳銃をクリスに突き付けクリスを人質にした。

兵士隊長

「う、動くなよ海賊動いたらこのガキ殺すぞ！」

マーベラス

「殺せよ」

兵士隊長

「な、何!？」

マーベラス

「別にソイツは俺の知り合いでもないからなそれにお前ソイツ撃ち殺したら次はお前はこいつ等の仲間入りだぞ（チヨイチヨイ）」

マーベラスは人差し指を兵士の死体に指を指した。

兵士隊長

「う．．（ガチガチ）」

マーベラス　　．．？

「どうした撃たないのか．．」

兵士隊長

「う、ウワアアアア!!」

ガチャ!

ダッ!

スパ

マーベラス

「……までだ」

兵士隊長

「……(ガク)」

ドサ

雪音 クリス

「キャ!？」

雪音クリス親子

「クリス!？」

兵士隊長はマーベラスに言われ兵士隊長は精神不安定になりクリスに突き付けた拳銃はクリスからマーベラスに向けたがマーベラスは素早く移動しながらゴーカイガンからゴーカイサーベルに変え拳銃を斬りゴーカイサーベルを兵士隊長首に突き付け兵士隊長は脱力し人質にされていたクリスは開放された。

兵士隊長

「」

マーベラス

「恨むんなら海賊に喧嘩売った自分自身を恨みな」

ザシユ

マーベラスは兵士隊長の首筋に突き付けていたゴークァイサーベルで斬りつけ兵士隊長は絶命した。

・マーベラス

「また汚れたか」

・マーベラスは全身血まみれだった。

雪音 クリスママ

「あ、あの」

マーベラス

「？」

雪音 クリスママ

「わ、私達をた、助けてくれて、あ、ありがとう」

マーベラス

「勘違いするな」

雪音 クリスママ

「え？」

マーベラス

「こいつ等が気に入らなかつただけだお前等はついでだ」

雪音 クリス

「そ、それでも、ありがとうママとパパを助けてくれて」

マーベラス

「フン」

セレナ

「マーベラスさくらん」

セレナは後からゴーカイガレオンを降りて民間人達を救出していたあらか方終わり
マーベラスと合流した。

マーベラス

「何だ？人助けは終わったのか？」

セレナ

「あ、はいナビイさんの指示であらか方終わり、ました」

マーベラス

「そうか何人が死んだんだな？」

セレナ

「はい」

・マーベラス

「おいトリ今すぐこのクズ共を燃やせ（ガチャ）」

「ゴーカイガレオン／船内」

トリイ

『トリじゃなくてトリイだよ分かったよ大砲を“フレイム弾”に切り替えてホーミングモード発射！』

ドドオン!!

「とある国／国内」

セレナ

「あ、貴方達離れていてください」

雪音 クリス親子

「「？」」

ボン

ボオオオオオ!

「ゴークイガレオンから大砲を放たれ兵士達の死体に当たり燃え出した。」

マールベラス

「フン。セレナ俺は風呂に入ってくるからその間に避難民治療でも好きにやってろ。」

セレナ

「はい。」

マールベラス

「助けられなかった奴等の死体は避難民と一緒に集めさせとけ」

セレナ

「はい。」

マールベラスとセレナは再び別れた。

戦争3

「とある国／国外」

雪音 クリス

「あらためて助けてくれてありがとうマーベラス達が来なかったらアタシ達はどうなっていたか」

マーベラス

「まあ、その礼は受け取ってやる」

雪音 クリス

「へへッ♪それにしても本当にすげえなゴーカイガレオンもそうだけど、医療ポッド”
だっけ？アレのお陰で怪我人達を治すし無くなつた手足を再生させるなんて宇宙の科
学って凄いな。」

マーベラス

「そうか？」

雪音 クリス

「そうだよ。それにこの粒子。だっけこの粒子のお陰で相手の兵隊達からこの情報が

。？

入らないから無駄に相手の兵士の被害がかなり出てあの国の偉い奴等人の命考えてないな」

マーベラス

「まあ、このゴークイガレオンのエンジン『GNドライブ』のお陰で情報が入らないだけ何だかな」

雪音 クリス

「この粒子綺麗だな〜♪」

・
・
・
マーベラス

「
・
・
・
」

???

『綺麗だね “GN粒子”』

???

『流星は私達のパパだ』

マーベラス

「そうだな」

マーベラスはクリスを見て何かを思い出していた。

ブルル！

マーベラス

「緊急通信？何だどうした？（ピッ）」

マーベラスのモバイルーツから緊急通信が入った。

トリイ

『マーベラス大変だよ！』

マーベラス

「どうした？」

トリイ

『ブルワーズの残党が地球に向かってるんだ!？』

マーベラス

「は？彼奴等銀河連邦に捕まった筈じゃ
.....?」

トリイ

『ブルック・カバヤンやヒューマンデブリは捕まったけど複数人は逃げたみたい』

マーベラス

「マジかよ後どのくらいで到着する？」

トリイ

『5時間後だよ』

マーベラス

「分かった国にいる奴
.....? (ザザ)」

???

『久しぶりだなキャプテンマーベラス』

マーベラス

「その声 “ エージェント・アブレラ ” か？」

突然トリイとのモバイルーツの通話中に何者かが割り込んできたその名も死の商人
エージェント・アブレラだった。

アブレラ

『その通りだ私は今地球にいる』

マーベラス

「何？死の商人であるお前がこんな田舎の地球に何で来てんだよ？」

アブレラ

『それはもちろんキャプテンマーベラスお前達海賊を壊滅させる為だ』

マーベラス

「こりねえな。まさかブルワーズの残党に“怪獣機”を渡したのか？」

アブレラ

『その通りそしてお前が相手をしている国にも一体の怪獣機と“アーナロイド”、“バーツロイド”、“イーガロイド”をやった』

マーベラス

「何」

アブレラ

『まあ、精々顔張る事だな私は貴様達を倒しそして私は兄を越える（ブツ）』

トリイ

『マーベラス!?!』

マーベラス

「トリ聞いているの通りだ国の奴らを地下に避難させろ」

トリイ

『分かった!』

ブツ

雪音 クリス

「マーベラスどうしたんだ？」

マーベラス

「今から嫌な客が地上と宇宙から来る」

雪音 クリス

「何だって!?!」

マーベラス

「今から俺達で作った地下の避難所に行く付いて来い」

雪音 クリス

「わ、分かった。■（また、争いが始まつちまうのかよマーベラスがまたあんな辛そうな顔させるしか出来ないのかアタシは）」

「とある国／国内」

セレナ

「マーベラスさん!？」

マーベラス

「セレナ、トリから話は？」

セレナ

「聞きました」

マーベラス

「だったら」

ドオオオオオン!!

ワア!!

ナンダナンダ!!

ゴーカイガレオンのバリヤの外から攻撃された。

トリイ

『マーベラス！アブレラの攻撃だ！』

マーベラス

「チツ、早速来やがったな」

雪音 クリス

「マーベラス……」

マーベラス

「トリ今すぐ地下のエレベーター入口を来処に転送しろ」

トリイ

『分かった』

ブウウウウン!!

ガアアアア!!

マーベラス達の目の前にエレベーターが出現してと同時に扉が開いた。

セレナ

「皆さん早くエレベーターに乗ってください！」

雪音 クリスママ

「クリス此方に来なさい！」

雪音 クリス

「ママー！パパー！」

ドオオオオオン！！

トリイ

『マーベラス！バリヤが破られるよ！』

マーベラス

「チツ、流石は死の商人だバリヤが破られるのも時間の問題だなセレナ！！」

セレナ

「は、はい!？」

マーベラス

「入口死守しとけ！」

セレナ

「わ、分かりました！」

バリイイイイン

トリイ

『ワー!?!破られたー!?!』

ゴーカイガレオンのバリヤが破られた。

マーベラス

「チツ、来やがったか急げ！」

雪音 クリス

「マーベラス!?!」

アーナロイド

「クリーン！」

バーツロイド

「!!」

イーガロイド

「見つけたぞキャプテンマーベラス」

マーベラス達の前に機械人間の集団が現れた。

マーベラス

「来やがったかガラクタ軍団」

避難者1

「ヒツ、な、何だあれ!?!」

トリイ

『マーベラスさっきの主砲と一緒に入って来ちゃったよ!』

イーガロイド

「ここにいる奴ら全員殺せ！」

アーナロイド達

「「「クリーン!!」「」」」

雪音 クリス

「マーベラス！セレナ！」

マーベラス

「行くぜ！セレナ！」

セレナ

「はい！」

カチ×2

マーベラス、セレナ

「「ゴーカイチェンジ!!」」

モバイレーツ

??ゴーカイジャー!!??

雪音 クリス ?!

「ふ、二人が変わった」

「ゴーカイレッド」

「ゴーカイレッツド！」

ゴーカイピンク

「ゴーカイピンク！」

ゴーカイレッツド

「海賊戦隊」

ゴーカイレッツド、ゴーカイピンク

「『ゴーカイジャー!!』」

ゴーカイレッツド

「派手に行くぜ！」

海賊VS商人1

？とある国／中央？

マーベラス、セレナ

「ゴーカイチエンジ!!」

モバイレーツ

??ゴーカイジャー!!??

ゴーカイレッツド

「ゴーカイレッツド!」

ゴーカイピंक

「ゴーカイピंक!」

ゴーカイレッツド

「海賊戦隊」

ゴーカイレッツド、ゴーカイピंक

「ゴーカイジャー!!」

ゴーカイレッツド

「派手に行くぜ！」

ズドドドン!!

アーナロイド

「クリーン!!」

ドオン!

ゴーカイピンク

「ここからは誰にも通しません！」

バーツロイド

「ハア! (ドンドン!)」

ゴーカイレッド

「フン! (ガガキーン)」

マーベラスとセレナがモバイレーツで変身した後アーナロイド達と戦いに向かい
ゴーカイピンクはエレベーター前に来たアーナロイド達を二本のゴーカイガンで撃ち
まくった。

ゴーカイレッドは二本のゴーカイサーベルでバーツロイドが撃ったレーザーを斬り
落とした。

トリイ

『マーベラス！セレナ！全員乗ったよ！』

雪音 クリス

「マーベラス！セレナ！負けるな！」

トリイ

『扉閉めるよ！そこにテレビがあるからこのテレビでマーベラス達の活躍見れるよ』

ボタン!!

パ

ゴーカイレッド

「頑張れか海賊を応援するなんて変わってんな（ギチギチ！）」

イーガロイド

「無駄話する余裕があるとは流石だな（ギチギチ！）」

エレベーターのドアが閉まったと同時にエレベーターの入口は消えた。ゴーカイレッドとイーガロイドと鏑迫り合いをしながら話をしていた。

ゴーカイレッド

「余裕に決まってるだろ（ザザザザン!!）」

イーガロイド

「グワアアアアア!!」

ドオン!!

ゴーカイレッドは片腕で鑢迫り合いをしていたイーガロイドにもう片方のゴーカイサーベルでイーガロイドを連続斬りしイーガロイドは爆発した。

ゴーカイレッド

「雑魚が。」

ゴーカイピンク

「マーベラスさくそろそろ 〴〵他の戦隊〴〵になりませんか?」

ゴーカイレッド

「そうだな。ならコイツだな(ガチャン)」

ゴーカイレッドはベルトから小さい人形らしき物を出した。

ゴーカイピンク

「成程 〴〵デカレンジャー〴〵ですか♪(ガチャン)」

ゴーカイレッド

「いくぜ!」

ガチャ×2

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「ゴークイチェンジ!!」

モバイレーツ?2

??デークレンジャー!!??

ゴークイレッド、ゴークイピंक

「フェイスオン!!」

ゴークイレッド?

「百鬼夜行をぶった斬る!!?地獄の番犬!デカマスター!!?」

ゴークイピंक?

「デカスワン!!」

ゴークイレッド、ゴークイピंकはモバイレーツにレンジャーキーを差し込みゴークイレッドはデカマスター、ゴークイピंकはデカスワンに変わった。

デカマスター

「ディーソードベガ!さあて!100体斬りやってやるぜ」

デカスワン

「手加減しませんからね」

デカマスター

「ソードベガスラツシュ!! 3連斬り!!」

ザザザン!!

イーガロイド? 3

「「グワアアアアア!!!」」

デカスワン

「スワンイリユージョン!!」

ビュオオオオ!!

アーナロイド、バーツロイド

「「グリーン!!」」

ズドドオオオオオオン!!

ゴーカイレッド

「100人斬り達成」

ゴーカイピンク

「こつちも終わりました」

ドゴゴゴゴ!!

ゴーカイレッド

「何だ？」

トリー

『マーベラス！セレナ！地下から怪獣機が出てくるよ！』

ズドオオオオオン！！

怪獣機

『ゴアアアアア！！』

ゴーカイレッツド達がアーナロイド達を全滅させた後地下からエージエントアブレラが作り上げた怪獣機が現れた。

ゴーカイレッツド

「あれは「メカゴモラ」だな」

ゴーカイピंक

「メカゴモラなんてよく作りましたね」

ゴーカイレッツド

「まあ、とつとと片付けるぞトリバリヤ貼ったままにしとけよ（ピピピ）」

トリー

『リョウカ〜イ』

ゴーカイガレオン

?ゴークイガレオン!!?

ゴークイレッド、ゴークイピンク

「海賊合体!!完成!!ゴークイオー!!」

ゴークイレッドはモバイレーツでゴークイガレオンを呼びゴークイレッド、ゴークイピンクはゴークイガレオンにロープで乗り込みゴークイガレオンは合体しゴークイオーが完成した。

?ゴークイオー／コクピット?

ゴークイレッド

「とつとと片付けるぞ」

ゴークイピンク

「あのゴモラ可愛くありません速く片付けましょう」

海賊VS商人2

?とある国／国外?

???

「巨大戦来ましたー！ー!!」

トリイ

『わあ、びつくりした “バエ” 驚かさないでよ!?!』

バエ

「これは失礼しました。では、改めて実況は私 “激獣フライ拳のバエ” と」

トリイ

『え〜と? トリイが送りいたしま〜す?』

バエ

「おや、貴方のお名前 “ナビイ” ではありませんでしたか?」

トリイ?

『あ、マーベラス達がトリとかトリイって言うからトリって名前に執着してた
じやあ改めてマーベラス達のサポーターナビイだよ』

.....
じ、

バエ

「では、場所移動しません？」

ナビィ

『そうだねじゃあクリス達のいる所に移動しよう♪』

バエ

「そうしましょう♪」

ナビィ

『オイラに捕まってね』

バエ

「はい」

パ

ナビィは転送した。

？とある国／地下？

パ

ナビィ

『ヤッホ〜クリス』

雪音 クリス

「わ、トリイとハエ？」

バエ

「初めまして私激獣フライ拳のバエと申します」

雪音 クリス

「あ、ど、どうもこいついたっけ？」

バエ

「あ、私暫くマーベラスさんに言われ偵察に行っていました」

雪音 クリス

「偵察何で？」

ナゼイ

『ま、それは置いといて巨大戦の実況しなよ』

バエ

「そうですねでは改めて我等のゴーカイオー対する対戦相手はゴモラをメカに改造されたメカゴモラ！」

雪音 クリス

「メカゴモラ？」

ナビィ

『あのメカゴモラはある宇宙人組織が作り上げたんだまあ、大量生産される前にその宇宙人組織はマーベラス達が壊滅させたんだよね〜まさかアブレラが作り上げたとは驚いたけどね』

雪音 クリス

「へ〜」

バエ

「さあ！先に動いたのはメカゴモラ！その同時にゴーカイオーも動いたー！」

雪音 クリス

「ゴーカイガレオンが合体して巨大ロボになるなんてあのロボットマーベラスとセレナが操縦してるのか？」

ナビィ

『そうだよ』

バエ

「ゴーカイオー！メカゴモラにゴーカイケンの斬撃攻撃が決まったー！これには流石にメカゴモラ怯んだー！」

ナビィ

『ヨシ!!』

バエ

「おっと！メカゴモラ怯んだ後にロケットパンチでゴーカイオーの両腕を掴まれ動きを封じられたー！」

雪音 クリス

「マーベラス！セレナ！」

ナビィ

「不味いメカゴモラのビームチャージが完了しちゃう」

バエ

「メカゴモラ！ビームチャージ完了してしまった！」

雪音 クリス

「あ！メカゴモラがビーム撃ちやがった!!」

バエ

「ビームがゴーカイオーに直撃したー！これは。」

ゴーカイオーにメカゴモラのビームが直撃したが

バエ

「無傷だー！」

ナビィ

『ビーム撃たれた直後に“GNシールド”を貼ったようだね（ホツ）

バエ

「防いだのはいいのですが両腕が封じられている状態です」

ナビィ

『レンジャーキーを使うね』

バエ

「どのレンジャーキーを使うのでしょいかー!!（ズイイ）↑大興奮

ナビィ

『さ、さあ（は、鼻息が荒すぎる）（アセアセ、タジタジ）』

バエは大興奮しながらナビィに思いつきり近付いた。

雪音 クリス

「レ、レンジャーキー?」

クリスはレンジャーキーの事を聞こうとしたがバエの迫力に負けて聞けなかった

? ゴーカイオー／コクピット?

ゴーカイレット

「レンジャーキーを使う」

ゴーカイピंक

「はい、どのレンジャーキーを使うんですか？」

海賊VS商人3

「ゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレット

「レンジャーキーを使う」

ゴーカイピंक

「はい。どのレンジャーキーを使うんですか？」

ゴーカイレット

「『ガオレンジャー』キーだ」

ゴーカイピंक

「分かりました」

ゴーカイレット、ゴーカイピंक

「レンジャーキーセット！レッツゴー」

ガチャン

ゴーカイガレオン

？牙吠！！ガオライオン！！？

♪

ガオライオン

『ガオオオオオ!!』

ゴーカイレッドとゴーカイピンクは舵にある鍵穴にレンジャーキーを差し込み空からパワーアニマルガオライオンが現れた。

ゴーカイピンク

「別の地球なのにガオライオン来てくれましたね」

ゴーカイレッド

「ガオライオンメカゴモラの両手の鎖を切れ」

ガオライオン

『ガアオ!』

ザン!

バキン!バキン!

ゴーカイオー両腕に付いていたメカゴモラの両手の鎖をガオライオンに切らせゴーカイオーは自由になった。

ゴーカイレッド

「よし、合体だ」

ガオライオン

『ガアアアオ!』

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「完成!!ガオゴーカイオー!!」

「とある国／地下」

バエ

「おーつとあのゴーカイオーは!？」

ナビィ

『百獣戦隊ガオレンジャー』 パワーアニマルガオライオンだよ。そしてあのゴーカイオーはガオライオンと合体した姿ガオゴーカイオーだよ。はいバエ、ガオレンジャーの資料』

バエ

「あ、これはどうも。 . . . (フムフムナルホドナルホド)」

雪音 クリス . . .

「あ、アタシも見たい」

ナビィ

『でも、これでも勝てるかな〜?』

バエ

「それはどういう事でしょうかー! (ズドオオオオオ)」

バエは興奮しながらナビィに体当たりをした。

ナビィ

『ブフエ!? メ、メカゴモラは本来のゴモラより頑丈とタフさが高いんだよねガオライオンの攻撃でも効果があるかどうか (ドゴオオオオオ!)』

バエ

「で、では! マーベラスさん達はメカゴモラをどうやって倒すのかナビィさん分かるんですか!？」

ナビィ

『ま、まああのキーを使うかも知れないな。』

バエ

「あのキー...それは一体」

ナビィ

『ああ、それはね...』

「ガオゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「チツ、余り決定打にならねえな」

ガオゴーカイオーはメカゴモラの攻撃を避けながら接近して反撃攻撃していたがメカゴモラはただ後ろに下がるだけであつた。

ゴーカイピンク

「どうしますか？あんなにビーム連続に撃たれつづけられたらアニマルハートが撃てませんよ」

ゴーカイレッド

「あのキーを使う」

カチ

ゴーカイピンク

「あ、そのキーは！」

ゴーカイレッド

「サイバーエレキング」キーセット！レッツゴー！」

ガオゴーカイオー

? エーレキング!?

キイイイ!

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「ガオゴーカイオー! エレキングアーマーアクティブ!!」

「とある国/地下」

バエ

「ゴーカイオーに武装が付いたーあれは何でしょうか! (フンフン!)」

ナビィ

『(は、鼻息荒) あ、アレは「ウルトラマンX」が使っていたんだウルトラマンXと偶然会ってマーベラスが「怪獣アーマー」と「ウルトラマン」をキーパーションにしたいからその技術をウルトラマンXもらったんだ。あ、因みにこれが他のウルトラマンにも出会ったよ先ずはウルトラマンXの資料ね』

バエ

「あ、これはどうも」

雪音 クリス

「アタシも見たい」

ナビィ

『さてマーベラスがサイバーエレキングを選んだ理由は
』

「ガオゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「メカゴモラの動きを止める」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「ゴーカイエレキング電撃波!!」

バチバチィ!

メカゴモラ

『ギャオオオオオ!! (ガクン)』

メカゴモラは電撃波をくらい動きが止まった。

ゴーカイピンク

「今です!」

ガオライオン

『ガオオオオオオ! (コオオオ!)』

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「ゴーカイアニマルハート!!」

ガオライオン

『!!(ゴ!!)』

メカゴモラ

『!!?(ズドオオオオ!!)』

ズズン

カッ!

ドオオオオオン!!

「とある国／地下」

バエ

「決まったー！ー！ー!!メカゴモラVSガオゴーカイオーとの勝負の勝者はガオゴーカイオーだアアアア!!」

雪音 クリス

「イヨッシ!」

ナビィ

『フフン、マーベラスがエレキングにした理由はメカゴモラをショートさせられる為さ
電撃攻撃が可能なエレキングを理由にしたのはまさにそれさ』

バエ

「なるほど、マーベラスさんがエレキングアーマーにした理由はそういう事だったんで
すね」

雪音 クリス

「やったぜマーベラス」

ナビィ

『ん？た、大変だーーーーー！マーベラス！』

「ガオゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「何だトリ？」

ナビィ

『ブルワーズの残党がそこに来るよ!!』

ゴーカイピンク

「えっ」

ズドドドドオン！

上空からガオゴーカイオーの周りに複数のロボットが現れた。

ブルーワーズ残党幹部

「やっと思つけたぞキャプテンマーベラス！」

ゴーカイレッド

「テメエは」

ゴーカイピンク

「あの男は」

ナビィ

『あの男』

ブルーワーズ残党幹部

「グフフ」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ナビィ

「『テメエ（貴方）（アイツ）誰？（でしたっけ？）（だっけ？）』」

ブルークワーズ残党幹部
「!!? (ガーン!!)」

海賊V S 海賊 I

「ガオゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「で、オメエ誰？」

ブルワーズ残党幹部

『て、テメエ！ブルワーズの“クダル・カデル”様を忘れたのかよ!?!』

ゴーカイレッド

「知らねえよ」

ゴーカイピンク

「ブルワーズの施設とヒューマンデブリを売ろうとしてた施設色々を潰しまくりましたからね」

ゴーカイレッド

「仕方ねえだろ何処ぞの馬鹿が俺の金を全額寄付金にしちまって仕方なくブルワーズの施設にゴーカイガレオンで突撃してその施設の金とヒューマンデブリを奪ったんだよな」(ジ)

ゴーカイピンク

「(ギクツ!)で、でもマーベラスさんとトリさんそれにバエさんそのお宝とお金を見てヒヤッホッイって言つてたじゃないですか(ビクビク)」

ゴーカイレッド

「当たり前だ金が必要だったんだからな。資金が底を突いた時なんてなマジで餓死するところだったんだが(ジド)」

ゴーカイピンク

「ま、まあ、ブルワーズの施設とヒューマンデブリ売り場潰せて良かったじゃないですか(ビクビク)」

ゴーカイレッド

「で、オメエはブルワーズの船長を見捨てて自分達だけで俺に無謀にも挑んで来たつてわけだ(ハァ)」

クダル・カデル

『そ、そうだよエージェントアブレラから無け無しの全財産をはたいてこの「レギオノイド」と「マン・ロディ」を買い取つたんだよ』

ゴーカイレッド

「アイツがレギオノイドαを、よく見たらあのレギオノイドと「マン・ロディ」

ゴーカイピンク

「?どうかしましたか?」

ゴーカイレッド

「いや、何でもねえとにかくガオリオンまだやれるか?」

ガオリオン

『ガアアアアオ!』

ガオリオンはまだ余裕と咆哮を上げた。

ゴーカイレッド

「大丈夫かなら “シンケンゴーカイオー” だな」

ゴーカイピンク

「待ってくださいマーベラスさん」

ゴーカイレッド

「何だ?」

ゴーカイピンク

「ちよつと考えた合体があるんです」

ゴーカイレッド

「何だ?」

ゴーカイピンク

「ここは『ゲキレンジャー』でいきましょう」

ゴーカイレッド

「ゲキレンジャー？ 激激獣で速攻で決めるのか？」

ゴーカイピンク

「いえ、『黒獅子』と『ラブウオリア』と『ゲキブルー』と『ゲキイエロー』のレンジャーキー合体します」

ゴーカイレッド

「出来んのか？」

ゴーカイピンク

「出来ます。多分」

ゴーカイレッド

「仕方ねえな。いいだろう」

カチ×2

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「ゲキレンジャーキーセット！」

ガチャン！

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク

「レッツゴー！」

ガオゴーカイオー

?ゲキレンジャー!?

ガオゴーカイオーの中にゲキレンジャービーストアニマル “ゲキジャガー” “ゲキ
チーター” “リ・カメレオン” が出て来た。

下半身にいたガオリイオンは胸部に移動し色は赤から黒に変わり合体が完了しその
名も

ゴトカイレッド、ゴーカイピンク

「完成ゲキレンゴーカイオー!!」

ゴーカイレッド

「マジで出来た」

ゴーカイピンク

「さあ!もつと派手に行きますよ!」

海賊VS海賊2

「とある国／地下」

バエ

「な、何だあのゴーカイオーはー!? 『ゲキリントージャ』に似ているぞ〜?」

ナビィ

『どうやらゲキレンジャーキーのリオとメレ、ゲキブルー、ゲキイエローのレンジャーキーを使ったようだね』

バエ

「成程しかし私はあの合体初めて見ましたが?」

ナビィ

『まあ、発案者はセレナだね。『シンケンジャー』の地球で『池上龍之介』にガオレンジャーとゲキレンジャーの資料見てこれは『**・**』って思いついたようだよ』

バエ

「あく成程あの人ウザかったですね」

ナビィ

雪音 クリス、バエ

「?」

ナビィ

『見てれば分かるよ。でもマーベラスは大丈夫だけどセレナはヤバイな(ボソ)』

「ゲキレンゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイピンク

「はあはあ」

ゴーカイレッド

「とつとと決めるぞお前の体力根こそぎ取られちまうぞ」

ゴーカイピンク

「は、はい。(ゼエゼエ)」

クダル・カデル

「何だあのゴーカイオー? まあいい行くぜキャプテンマーベラス!」

スパン

クダル・カデル

「え？」

ブルワーズ残党達

『エエエエエ！あつさり斬られたー!?!』

レギオノイドαはゲキレンゴーカイオーを攻撃しようとした。ゲキレンゴーカイオーは剣を出しレギオノイドαを剣で斬ろうとしたがレギオノイドαは片腕をあつさりと斬られた。

？ゲキレンゴーカイオー／コクピット？

ゴーカイレット

「やつぱりアブレラの野郎大気圏突破だけ出来るようにしたただけで後は全部が安物で武器まで安物本来のレギオノイドαとマン・ロディ大気圏突破しただけであんなにボロボロじゃないからな彼奴等アブレラに出汁に使われたか捨て駒にされたな」

ゴーカイピンク

「気の毒に……（ハアハア）」

ゴーカイレッド

「気の毒だが俺達を追い掛けて来たんだ全力で相手してやるか」

クダル・カデル

「チクシヨーアブレラの野郎ー！俺を謀りやがったな！」

ブルワーズ残党1

「ヤベツにげ」

ザン！

ドオン！

ブルワーズ残党2

「キ、キャプテンマーベラス！て、テメエ情けは無いのか!？」

ゴーカイレッド

『海賊に情け何てある訳無いだろお互い海賊やってんだ何れ奪うか奪われるかだ』

ザン！

ドオン！

ザザザザアン!!

クダル・カデル

「な、何だこれは。か、勝ち目なんてねえこんなオンボロじゃ勝ち目なんてねえここは

逃げるが勝ち。」

ギユルルル!

ギチイ!

ゴーカイレツド

『何処に行くんだ?』

クダル・カデル

「ヒイ!?!」

ゲキレンゴーカイオーは10体いたマン・ロディを剣で素早く動いて斬りまくり残りはクダル・カデルのみで逃げようとしたがリ・カメレオンの舌によってレギオノイドαは巻き付けられ拘束された。

ギチギチ

クダル・カデル

「ひ、ヒイヒイ!?!」

ゴーカイレツド

『テメエあのまま銀河連邦に捕まつてりやこんなことにならなかつたのにな俺は捕まえ
るじやなく殺すだけだぜ』

クダル・カデル

「お、お前達、楽しんでるだろ、殺しを」

ギチチイ!!

ドオオオオオン!!

拘束されていたクダル・カデルはリ・カメレオンの舌の巻き付けを更に締め付けレギ
オノイドαは爆散した。

「ゲキレンゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「馬鹿か海賊何だ殺し何て日常茶飯事だろうが楽しんでるのは殺される覚悟の無い奴の
台詞なんだよ」

ゴーカイピンク

「ハアハア」

ゴーカイレッド

「とつとつと合体解除だな」

パ

ゲキレンゴーカイオーは合体解除しゴーカイガレオンに戻った。

ガオライオン

『グルル。』

ゴーカイレッド

「悪かったなガオライオンお疲れ “天空島” に戻って休んでな」

ガオライオン

『ガアアアアア！』

ガオライオンの咆哮で時空の穴が開きその穴は天空島に繋がっていたガオライオンはその穴に入って行った。

マーベラス

「セレナお前も休んどけ」

セレナ

「は、はい。(スヤア)」

マーベラス

「はあ」

マーベラスは寝てしまったセレナをお姫様抱っこしてセレナを部屋まで連れていき

ベッドに寝かせた。

マーベラス

「トリ、バエはいるか？」

ナビィ

『いるよ。バエ』

バエ

『あゝハイハイ何でしょうかマーベラスさん？』

マーベラス

「俺が頼んだ事は？」

バエ

『ええ、バツチリです場所は』

マーベラス

「さうか分かったサンキュ」

・マーベラスはモバイレーツでナビィに繋げ次にバエから情報を聞いた。

マーベラスはセレナをナビィとバエに任せマーベラス本人は“メガレンジャー”に変身し“サイバースライダー”で何処かに向かつて暫く戻って来なかった。

別れまた会う日まで

「??」

ザアン！

イーガロイド

「ウガア!! (ドオン!)」

マーベラス

「これでテメエを守る奴等は全滅だな」

男

「ヒイヒイ！ア、アブレラ何とかしてくれ!？」

アブレラ

「おのれくキャプテンマーベラス」

マーベラス

「エージェントアブレラ悪い事は言わねえ今すぐに失せな」

アブレラ

「まあ、いいだろう、だが」

マーベラス

「金ならこのクズから絞り尽くしたんだからもういいだろ？」

アブレラ

「フツ流石にバレていたか確かに金を絞り尽くした。もう絞れる金は無い後はこの国は滅びるだけだな」

男

「な、何!？」

マーベラス

「自業自得だな（ガチャ）」

マーベラスはゴーカイガンをもに突き付けた。

男

「ヒッ、た、助け」

ドン！

ビシャー！

マーベラス

「命乞いすんじゃないやねえよ散々命を奪ったんだ奪われる側になる気持ちは地獄の奴等に聞いとけ」

アブレラ

「では、また何処かで会おうキャプテンマーベラス」

マーベラスは男を始末した後エージェントアブレラはマーベラスの前から消えた。

・マーベラス

「恨むならあの無能を恨めよな」

・マーベラスは男の兵士やガードマン達の死体からそう言った。

「とある国／広場」

雪音 クリス

「なあ、ナビイマーベラスいつ帰ってくるんだ？」

ナビイ

『さあくマーベラスは気紛れだからね』

雪音 クリス

「皆街の修復作業してるしアタシ暇だね」

バエ

「まあ、お暇なら他の子供達と遊んでいてはどうですかね？遊びの中に修行アリですかね」

雪音 クリス

「じゃあセレ」

セレナ

「ごめんね私配膳の仕事があるんで」

雪音 クリス

「チエ、ん？何か飛んで来てる？」

ナビィ

『お、噂をすれば』

ギユン！

メガレッド

「戻った」

雪音 クリス

「マーベラス！お帰り何処に行ってたんだよ!？」

マーベラス

「野暮用だ、トリ、バエ、セレナは目が覚めたのか？」

セレナ

「あ、はい、ご心配お掛けしました」

ナビィ

『ところで、どうしたの?』

マーベラス

「この国から出るぞ」

雪音 クリス

「えー!?何でー!?」

マーベラス

「敵対してたレジスタンスと交渉してた。レジスタンスと敵対してた親玉を始末したからレジスタンスに救出チームがこの国に来るから海賊がいるのは可笑しいだろ?」

バエ

「確かにそうですね」

マーベラス

「まあ、メシと治療道具は置いていくからさっさと行くぞ」

セレナ

「は、はいじゃあ皆さんお元気で（ペコリ）」

雪音 クリス

「ち、ちよつと待ってくれよマーベラス」

マーベラス

「ん？何だ？」

雪音 クリス

「行つちまうのか？」

マーベラス

「ああ、長居し過ぎたからな」

雪音 クリス

「そ、そっか。」

マーベラス

「一応まだこの地球にいるつもりだ探してみな」

雪音 クリス

「!?う、うん絶対探して見つかるからなマーベラス」

マーベラス

「フン、こんな血なまぐさい海賊に会いたいなんて変わってんな」

雪音 クリス

「マーベラス、握手してくれないか？」

マーベラス

「こんな血塗れの手にか？」

雪音 クリス

「ああ。」

マーベラス

「ほれ（ス）」

雪音 クリス

「!? マーベラスまた何処かで会おうな（ガシイ）」

マーベラス

「そうだな。クリス」

雪音 クリス

「!?（今、名前で呼んでくれた♪）」

マーベラス

「じゃあな」

雪音 クリスママ

「マーベラスさん皆さんありがとうございます（ペコリ）」

雪音 クリス。パパ

「色々お世話になりました（ペコリ）」

セレナ

「いえいえ、海賊にお礼何て必要ないですよ」

マーベラス

「おい、早くしろ俺達がここにいるとレジスタンスの軍が来れないからな」

セレナ

「あ、はいじゃあ皆さんお元気で」

ナビィ

『皆じゃあねえ♪』

バエ

「また何処かでお会いしましょう♪」

マーベラス達はゴーカイガレオンに乗り国を去った。

「ゴーカイガレオン／船内」

セレナ

「マーベラスさん次は何処に行くんですか？」

マーベラス

「決めてねえよ」

バエ

「まあ、この船の船長は自由ですからね。風が向くまま気が向くままですからね。」

ナビィ

『マーベラスこの地球もかなり黒い物がありまくりだよ？資金集めにはいいと思うよ？』

マーベラス

「まあ、金は必要だがまた誰かさんが全額寄付に回させられる訳にはいかんから
..... な！
(ジツ)」

ナビィ、バエ

『『そうだね(ですね)(ジツ)』』

セレナ

「!? (サツ)」

マーベラス、ナビィ、バエはセレナをじっと見た後セレナは顔を反らした。

マーベラス

「たくつ、まあ、その黒いところに行くか」

バエ

「何が待ってることやら」

ナビィ

『冒険♪冒険♪』

マーベラス

「よっしゃ次の場所は。」

ゴーカイガレオンはマーベラス達を乗せて新しい冒険の場に向かった。

原作開始

新入り1

あれからマーベラス達宇宙海賊達は色々やらかして色々アリ一時期地球を離れマーベラス達は色々な地球やウルトラマン達の星に行き新しいレンジャーキーの作成も出来た。

そして今マーベラス達はクリスマス達がい地球に戻って来た。

「地球」

「日本／商店街」

セレナ

「全くあの娘とマーベラスさん何処に行ったのんでしょ？（ハア〜）」

セレナは一人で買い出しをしていた。

セレナ

「あの娘は久しぶりの故郷の地球だし一人になりたいでしょうけどそもそもあの娘一人で大丈夫かしら？」

「とある家」

少女1

「久しぶりだな」

ある少女がとある家の前に現れたがその家には酷い落書きがされていた。

少女1

「やっぱり誰もいないや私皆に捨てられたんだな改めてマーベラスさんにあの時拾われてよかった。さて、マーベラスさん達と合流しよ♪」

少女1はある家の前にしばらく立ち尽くしていたがその場を去った。

少女2

「え、あの娘もしかして」

「街／裏路地？」

マーベラス

「ガツガツ!!」

男

「フフフ、久しぶりに貴方の食べっぷり作った側からしたら嬉しい限りですわね♪」

マーベラス

「アンタにそう言われるのは悪い気分じゃないな。ブラック指令」

ブラック指令

「フフ、マーベラスさん暫く地球から離れて今まで何処に？」

マーベラス

「まあ、ウルトラマンや他の戦隊の地球に行ったり新しいレンジャーキー作成してたりしてた（モグモグ）」

ブラック将軍

「そうですね、ウルトラマン達に」

マーベラス

「まあ、アンタにとっては複雑かもしれないがウルトラマンに会いに行つたのも訳がある」

ブラック将軍

「訳。そういうえば手配書増えましたね？」

マーベラス

「ああ、ソイツを鍛えさせるにはレオ兄弟やゼロに鍛えさせた」

ブラック将軍

「そうでしたかえつとこの娘の名前は」

ビービー！

ズドオオオオオン！！

男1

「ノイズだあああああ！！」

男2

「逃げろおおおお！！」

小さな女の子

「キャ!？」

ノイズ1

『!!』

小さな女の子

「ヒッ!？」

小さな女の子がノイズに襲われそうになったが

少女1

「危ない！」

ガバツ！

少女1が小さな女の子の前行き少女1は小さな女の子を庇ったが次の瞬間！

ズドドドオン×2
!!?

ノイズ

「!? (ズドン!)」

セレナ

「全く大丈夫ですか？」

少女1

「セレナさん！」

マーベラス

「騒ぎの場所にお前アリだな // 立花 響 //」

立花 響

「マーベラスさん！」

セレナとマーベラスがノイズに襲われそうになった立花 響をゴーカイガンでノイズを撃退した。

マーベラス

「さつさとそのガキを退ける邪魔だ」

立花 響

「は、はい逃げて」

小さな女の子

「う、うん！（ダツ）」

マーベラス

「ざつと数えて100か 20はお前らが相手しとけ残りは俺がやる」

セレナ、立花 響

「は、はい!!」

カチ×3

マーベラス

「派手に行くぜ!」

マーベラス、セレナ、立花 響

「「「ゴークイチェンジ!!!」」」

モバイレーツ×3

???
「ゴークアイジャー」
!!!???

ゴークイレッド

「ゴークイレッド！」

ゴークアイピंक

「ゴークアイピंक！」

ゴークアイエロー

「ゴークアイエロー！」

ゴークイレッド

「海賊戦隊！」

ゴークイレッド、ゴークアイピंक、ゴークアイエロー

「「ゴークアイジャー!!!」」

ゴークイレッド

「派手に「私の初デビュー戦です派手に行くぞー！」俺のセリフ!」

ゴークアイピंक

「言われちゃいましたねー（ヤレヤレ）」

新入り2

「商店街」

ザザアン！

ゴーカイレット

「派手にぶった斬る！」

ズドドオオオオオン！

ゴーカイピंक

「派手に乱れ撃ちます！」

ドゴオオオオオン！

ゴーカイイエロー

「派手にぶん殴る！」

ゴーカイレット

「相変わらずだ。なこの地球はノイズ共は相変わらず歯ごたえが無さ過ぎる（ヤレヤレ）」

ゴーカイイエロー

「マーベラスさくらん」

ゴーカイレッド

「何だ？（ドス！）」

ゴーカイイエロー

「アレに着替えてもいいですか？」

ゴーカイレッド

「レオとゼロ、シャーフー達に許可もらったんだ着替えても問題ないだろ」

ゴーカイイエロー

「じゃあ遠慮なくゴーカイチェンジ！」

モバイレーツ

？ // シーンフォギア！ // ？

ゴーカイイエロー

「♪ ♪ ガングニール！ ♪」

ズゴオオオオオン！！

ビュン！

ゴーカイレッド

「あぶね！」

ゴーカイイエローはシンフォギアに装着してノイズをぶっ飛ばしゴーカイレッドに

当たりそうになったが避けゴーカイレッドが相手をしているノイズ達に当たった。

ゴーカイレッド

「気よつける！（ザザン！」

ゴーカイイエロー

「すいませ〜ん」

ゴーカイピंक

「じゃあ私もゴーカイチェンジ！」

モバイレーツ

「？サーイバー怪獣!？」

ゴーカイピंक

「サイバーゴモラアーマーアクティブ！」

ゴーカイイエロー

「ワツ！セレナさんカツコイイ」

ゴーカイピंक

「ありがとう♪じゃあ行きますよ // 怒臨気雄峰突（どりんきおほうつく）！」

ゴーカイレッド、ゴーカイイエロー

「えっ!？」

ズドオオオオオン!!

「ゴークアイレット、ゴークアイイエロー

」

「ゴークアイピンク

」

「ゴークアイレット、ゴークアイイエロー

」

「ゴークアイレット

」

「テメエあの技禁じられた筈だろ何で使った!?

」

「えくとゴモラアーマー使ってたら何となく?」

ゴーカイレッド

「臨獣拳使えるようになったが制御うまく出来ないじゃねえかよそのせいで。」

ゴーカイピンクが怒臨気雄峰突を使ったせいでノイズ達は全滅したが商店街はボロボロになっていた。

ゴーカイイエロー

「マーベラスさんが『ゼットンアーマー』でバリヤしてなかったら私達もやばかったですよ（ウウ）」

ゴーカイレッド

「誰が直すと思ってるんだよ（ハア）」

女

「ちよつと貴方達!？」

ゴーカイレッド、ゴーカイイエロー、ゴーカイピンク

「「?」」

青髪女

「お前達あの時の海賊だな」

ゴーカイレッド達の前に二人女が現れた。

ゴーカイレッド

「そうだが、何で『天羽 奏』がまだシンフォギア纏えるんだ？まだ薬品登用してんのか？」

天羽 奏

「い、いやそれ」

青髪女

「おい勝手に話を進めるな！」

ゴーカイレッド

「一応身体検査した方がいいぞ？」

天羽 奏

「あ、ああ、そうしてんだけど」

アゝダコゝダ

青髪女

「おい！私を無視するな!？」

ゴーカイレッド

「ギャーギャーうるさえな！発情期か」

青髪女

「何で私が怒られるんだ!？」

ピッ

ゴークイレッド

「おいトリ今すぐ天羽 奏の身体検査しろ」

ナビィ

『は〜い』

パ

天羽 奏

「あ、あの時の赤い船!？」

上空にゴークイガレオンが現れ天羽 奏に光を当てた。

青髪女

「奏!？」

ゴークイレッド

「安心しろ」

プルル

ピッ

ナビィ

『マーベラスその娘回収して』

ゴーカイレッド

「ヤバイのか？」

ナビィ

『あの時よりマシンだけでもな検査されてないよ』

ゴーカイレッド

「分かった。おい天羽 奏」

天羽 奏

「？」

ゴーカイレッド

「お前俺達の船に連れて行く」

天羽 奏

「え、何で？」

ゴーカイレッド

「お前まだ身体状態悪いだろ？」

天羽 奏

「い、いやそんな事」

ゴーカイレッド

「嘘言うな」

天羽 奏

「!？」

ゴーカイレッド

「オメエあの時より無理してんだろ？」

天羽 奏

「いや無理なんて」

ゴーカイレッド

「話を長引かせたくねえから強制連行だ」

天羽 奏

「え？（トン）」

天羽 奏

「ハウツ（ドサ）」

青髪女

「奏!？」

ゴーカイレッド

「はあ、コイツちゃんと飯食ってんのか？」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「(か、奏さん羨ましいマーベラスさんにお姫様抱っこされてるなんて)」

ゴーカイレッド

「じゃあコイツ借りてくからな」

ゴーカイレッドは天羽 奏を気絶させゴーカイガレオンに連れて行かれた。

青髪女

「奏!?!」

ゴーカイピンク

「安心してくださいあの人の身体検査終わったからお返ししますよ」

ゴーカイイエロー

「それじゃあ」

青髪女

「ま、まてそこの黄色」

ゴーカイイエロー

「私?」

青髪女

「何故お前シンフォギアを纏える!?!」

・ゴーカイイエロー

「それは立花 響を調べたら分かりますよ “ツヴァイウイング” の “風鳴 翼” さ
ん」

風鳴 翼 ？

「立花 響だと」

ゴーカイイエロー

「それじゃまた会いましょう」

ゴーカイピンク

「では（ペコリ）」

ゴーカイイエロー、ゴーカイピンクはロープに掴まりゴーカイガレオンに入っていった。

「ゴーカイガレオン／コクピット」

ゴーカイレッド

「さて、街を元に戻すか」

バエ

「まあ、今回はこちらが悪いですからね〜」

ゴーカイレッド

「レンジャーキーセットレッツゴ（ハア〜）」

ゴーカイガレオン

？ “ミラクル・リアライズ”？

ドン

ペア！

ゴーカイレッドがウルトラマンコスモスキーを使ってゴーカイガレオンから大砲が撃たれ街の上空に爆散し街が元に戻った。

マーベラス

「たくっ何で海賊の俺が . . . (グチグチ)」

新入り3

「ゴーカイガレオン／医務室」

ナビィ

『ん〜天羽 奏この娘後少し診るの遅かったらヤバかったね』

医務室にはナビィが医療ポッドの中にいる天羽 奏の診察、治療をしていた。

ナビィ

『よし、終わり』

プシユー

天羽 奏

「ん〜?」

ナビィ

『おはよう天羽 奏ちゃん』

天羽 奏

「うわ!?メ、メカ鳥が喋ってる!?!」

ナビィ

『メカ鳥じゃないよナビィだよ』

天羽 奏

「こ、コレはどうも。で、ココは？」

ナビィ

『ココは空飛ぶ船ゴーカイガレオンの中だよ♪』

天羽 奏

「ゴーカイガレオン？」

ナビィ

『まあ、長話は此処までマーベラス達の所に行くよ？』

天羽 奏

「マーベラス？あ、待ってくれよ」

〔朝〕

〔ゴーカイガレオン／船内〕

マーベラス

「ほら飯出来たぞ」

立花 響、セレナ、バエ

「「ワ〜イ♪」」

セレナ

「!？」

立花 響

「ん〜やつぱりマーベラスさんの料理美味しい♪（モグモグ）」

バエ

「確かに今度レシピ教えて下さいね♪（モグモグ）」

マーベラス

「いいぞ」

セレナ

「あ、あのマーベラスさん」

マーベラス

「？」

セレナ

「私、白米だけなんです」

マーベラス

「前回勝手に禁じ技使った罰だが？」

セレナ

「うぐ?!」

マーベラスは全員に朝食を作り出来上がった料理をそれぞれ置いて並べたがセレナだけは白米のみであったそれもその筈前回禁じ手だった怒臨気雄峰突を勝手に使い商店街をボロボロにさせマーベラスはやりたくない事街の修復作業をしたセレナはその罰として白米一つであった。

マーベラス

「響前回の戦闘お疲れしつかり食えよ？」

立花 響

「はい！ありがとうございます！（モグモグ）」

バエ

「ですが満身はいけませんからね？」

立花 響

「うん、分かっているよバエ、ランさんによく『日々是精進、心を磨く』ようにって言われているんだからご飯食べ終えたら」

マーベラス、バエ

「座学だ（です）」

立花 響

「えー!?!」

マーベラス

「当たり前だろうが（モグモグ）」

バエ

「修業もいいですが勉強も大事ですよ（モグモグ）」

マーベラス

「俺とセレナもやってんだ文句言うなよ」

セレナ

「ひくん（泣）」

ナビィ

『皆々天羽 奏起きたよ』

天羽 奏

「え〜と」

マーベラス

「一応初めましてだな天羽 奏」

天羽 奏

「あ、その声あの時の赤い奴か？」

マーベラス

「そうだ俺はこの船の船長キャプテンマーベラスだ」

天羽 奏

「マーベラス？船？」

マーベラス

「そこの窓から見てみな」

マーベラスに言われ奏は窓を覗いた。

天羽 奏

「そ、空の上？マジで船の中？」

マーベラス

「話進めるぞ？」

天羽 奏

「あ、はい」

マーベラス

「先ずは自己紹介からだな改めて俺はこの船の船長キャプテンマーベラスであそこで白

米一つで泣いてるのがピンクのセレナだ」

セレナ

「白米だけだなんて（シクシク、ポシヨポシヨ」

天羽 奏

「何で泣いてんだ？」

マーベラス

「禁じ技勝手に使った罰で、次は」

バエ

「初めまして私激獣フライ拳バエと申します」

天羽 奏

「ハ、ハエが喋った（アワワ」

マーベラス

「驚く事か？」

バエ

「普通驚きますね響さんの時もそうでしたからね。ね、ひび

立花 響

「（ゴゴゴゴゴ！」

響は奏を見た瞬間怒りで奏を睨み付けていた。

バエ、ナビィ

「『』」

マーベラス

「で、あそこでお前を睨んでいる奴はイエローの立花 響」

バエ、ナビィ

「『（普通に紹介した!?!）』」

天羽 奏

「立花 響、まさか」

マーベラス

「そ、あの時の生き残りでお前が命懸けで助け」

バン

立花 響

「マーベラスさん私訓練所に行ってくださいます！」

マーベラス

「全部食っていつてるな感心感心」

天羽 奏

「？」

マーベラス

「何でお前睨まれたのか分からないって顔してんな」

・天羽 奏

「？」

・マーベラス

「アイツがあんな事なったのはお前等組織と両親、親友のせいだ」

天羽 奏

「な、何があつたんだあれから何が？」

マーベラス

「今は言いたくね」

ドン！

ナビィ

『マーベラス訓練所爆発したよ』

マーベラス

「あのバカ」

???、???、???
???、???、???

「何の音でぞよか（おじやるか）（なりか）ー！ー!?（ドタバタ）」

マーベラス

「三バカまで反応しやがったか（チ）」

天羽 奏

「三バカ？」

マーベラス

「まあ、早く訓練所に行くぞセレナ」

セレナ

「うう（シクシク）」

マーベラス

「何時までもウジウジするな行くぞ」

セレナ

「はい」（グス）」

・

新入り4

「ゴーカイガレオン／訓練所」

ボロ

3人

「■■■■ (ゴゴゴゴ!)」

■■■■ 立花 響

「■■■■」 ↑ 正座中

■■■■ マーベラス

「こりや派手にやったな」

ナビィ

『まあ、そんなに壊れてないから数時間で治るね』

立花 響

「マーベラスさんた」

3人?

「正座ぞよ (でおじやる) (なり) !!!」

立花 響

「はいいい！」

天羽 奏

「な、何だ彼奴等？」

マーベラス

「元畜機族ガイアークの三バカ大臣」

三バカ？

「「違うぞよ（でおじやる）（なり）!!!」」

キタネイデス

「我輩は『害気大臣キタネイダス』ぞよ」

ケガレシア

「妾は『害水大臣ケガレシア』でおじやる」

ヨゴシユタイン

「我は『害地大臣ヨゴシユタイン』なり」

マーベラス

「コイツら元悪の軍団だまあ、この地球でノイズと対決させたらコイツらが余裕で倒せる」

天羽 奏

「え!? ノイズを余裕で!」

マーベラス

「まあ、コイツ等の紹介はこれでいいが響お前 // 抜剣 // 使ったろ」

3大臣

『なぬ!? 抜剣!』

立花 響

「ウツ!? (ドキ!!)」

セレナ

「何で響が抜剣したの分かったんですか? (グウウ)」

マーベラス

「戦隊の強化版ならシステムは耐えられるが抜剣のデータはまだ未知数だ。だからシステムシヨートしてやがる (フン)」

セレナ

「成程、オナカスイタ (グスン)」

キタネイデス

「ナビイよ今すぐに響をスキャンするぞよ!」

ナビィ

『はいはい。異常無しだよ』

ケガレシヲ

「良かったでおじやる（ホッ）」

立花 響

「大げ」

ヨゴシユタイン

「何を言っているなり！」

セレナ

「以前勝手に抜剣使った時痛い目にあつたでしょ？」

立花 響

「うぐ!？」

セレナ

「まあ、抜剣した響の暴走止めたのは。」

全員（マーベラス、天羽 奏以外）

『ジツ!』↑マーベラスをジツと見ている

マーベラス

「何だよ？」

全員（マーベラス、天羽 奏以外）

『いえ何でもありません（メソラシ）』

天羽 奏

「あ、あの〜」

全員（天羽 奏以外）

『？』

天羽 奏

「今、変なワードを聞いたんだが抜剣使った？使えんの？」

マーベラス

「まあ、制限時間付きだがな」

天羽 奏

「アタシと翼は使えないのに」

マーベラス

「あ、そうだ天羽 奏」

天羽 奏

「？」

マーベラス

「お前もうシンフォギア装着出来ねえからな」

・天羽 奏

「は？」

・マーベラス

「当たり前だろお前あの時の事覚えてないのか？響に GANG ニール 移植しちゃったんだよお前にはもう欠片しかないがその欠片診察でもう無いから奏者としてはもう使えんぞ」

天羽 奏

「そ、そんな」

ケガレシア

「今、天羽 奏といたたでおじやるか？」

マーベラス

「ああ、そうだが（ハッ！）」

ケガレシア

「其奴のせいで妾の響があんな目にー！（ピーー！）」

マーベラス

「ゲツ!？」

キタネイデス

「と、止めるぞよ!？」（アワアワ）」

ヨゴシユタイン

「お、落ち着くなりケガレシア!？」（アセアセ）」

ナビイ

『落ち着いて落ち着いて!？」（キュ!キュ!キュ!』

ケガレシア

「ハア（プシユ）」

ケガレシアは天羽 奏の名前を聞いた途端顔が真っ赤になり蒸気が発生し流石のマーベラスも大慌てし何とかナビイがケガレシアの頭の上にあるバルブを回しケガレシアは落ち着いた。

マーベラス

「た、助かった」

キタネイデス

「ゴーカイガレオンの外ならとにかくゴーカイガレオンの中は洒落にやらんぞよ

（ゼエゼエ）」

◆ ◆ ◆

ケガレシア

「で、マーベラス何故此奴天羽 奏がいるでおじやるか? (ジツ)」

マーベラス

「一応コイツには響を助けた借りがあるだろ? その借りを返したただけだ」

ヨゴシユタイン

「そういう事なりか」

マーベラス

「まあ、こんな事これつきりだ」

セレナ

「あの、天羽さん」

天羽 奏

「?」

セレナ

「海賊になりませんか?」

全鼻?

『ハア!?!?!?』

!!!!!!

新入り5

「ゴーカイガレオン／訓練所」

前回天羽 奏をスカウトを勝手にしたセレナ全員の反応は果たして

セレナ

「どうですかみ」

3大臣

『反対じゃーーーー!!!』

ヨゴシユタイン

「何でこんな奴をスカウトするなり!?!」

キタネイデス

「事と次第によつては!」

ケガレシア

「妾のムチで首絞めの刑でおじやるよ?」

セレナ

■? ■

「え、えくとマーベラスさんは」

■ ■ ■

マーベラス

「先ずは答える話はそれからだな。」 (ポンポン)

立花 響

「♪」

「響はマーベラスに頭をポンポンさせ少し気分が優れた。」

マーベラス

「響、苛つくのは分かるが今は抑えろ。」 (ポンポン)

立花 響

「はい♪」

マーベラス

「で、天羽 奏をスカウトする理由聞かせろ」

セレナ

「えくと私達の新しい戦力としてです。」

マーベラス

「却下だ」

セレナ

「え？」

マーベラス

「当たり前だ新しい戦力何てのはいらん大体コイツには帰る所があるセレナと響、3大臣達には帰る所があるのか？」

セレナ

「そ、それは」

マーベラス

「軽々しく海賊勧誘するんじゃねえよ響よく我慢したな（ポンポン）」

立花 響

「はい」

マーベラス

「ケガレシア悪いが響とセレナ街に買い物しといてくれないか？」

ケガレシア

「それは良いでおじやるがマーベラスは？」

マーベラス

「俺とキタネイデスとトリでこの訓練所の修理と天羽 奏にあの時の真相でも知ってもらおうと思つてな」

ケガレシア

「分かったでおじやるよ」

マーベラス

「ヨゴシユタインお前も行って来てくれないか？」

ヨゴシユタイン

「我もなりか？」

マーベラス

「いくらなんでもケガレシアは響とセレナの面倒見なきやならないだろ俺が マジレンジャー” になって人間に化けさせる」

ヨゴシユタイン

「分かったなり 付け回す奴を見つけた場合はどうするなりか？」

マーベラス

「放つても構わんそいつ等の狙いは天羽 奏だが響の事を調べていたなら接触する可能性があるまあ、話を聞くかはセレナとケガレシアに任せるお前は万が一の為の護衛だ」

ヨゴシユタイン

「分かったなり」

マーベラス

「じゃあ後で合流しようぜ」

セレナ

「分かりました」

マーベラスはモバイレーツでマジレンジャーキーでマジピンクになりヨゴシユタイ
ンを人間にさせた（人間は「転スラのリグルド」）

ケガレシアは響、セレナ、ヨゴシユタインを連れて街に降りていった。

ジジジ

バチバチ

マーベラス

「響の奴派手にぶっ壊したな」

キタネイデス

「しかしセレナも何を考えているのか分らんぞよ（カタカタ）

マーベラス

「戦力アツプさせたい理由は分からなくもないがな」で、あの日の資料見てどうだった
？（バチバチ）

天羽 奏

「コレ本当なのか」

マーベラス

「ああ、ウチのトリが徹底的に調べたからな本当だろうな」

ナビィ

『オイラ徹底的に調べた』

マーベラスはキタネイデスとナビィはゴーカイガレオンに残り響が壊した訓練所を修理していて天羽 奏はあるデータ資料を見ていて驚愕していた。

天羽 奏

「あの人が関わっていたなんて」

マーベラス

「お前がどう思うがそのデータ确实だぞ」

天羽 奏

「」

キタネイデス

「マーベラスはあの小娘をどうするぞよ？」

マーベラス

「まあ、例のデータを見せたんだしその後どうするのはアイツ次第だ」

ナビィ

『そうそう』

天羽 奏

「あ、あの。」

マーベラス

「？」

天羽 奏

「こ、この事翼は知っていたのか？」

マーベラス

「さあな、そいつ個人なのかテメエらの組織が関わっているのか第三の組織なのかはそこは不明だ」

天羽 奏

「。」

マーベラス

「この先どうするのかお前自身が決めろ」

天羽 奏

「アタシ自身」

ブルド！

マーベラス

「ん？セレナから（ピッ）」

ズドオオオオオン!!

マ[?]ベラス、キタネイデス、ナビイ、天羽 奏

「「「!?!?」」」

マ[!]ベラス

「おいどうしたセレナ?（キーン）」

セレナ

『あ、マーベラスさん実は変な黒服の人達が私達を捕まえようとちよつと触らないでください!?!（バキ）』

ドカバキグシャ!!

オマエタチカグゴスルデオジャル!↑ケガレシア

キタネイデス

「あ、ケガレシア暴れているぞよ」

ワレノナカマタチニナニスルナリ!↑ヨゴシユタイン

ナビイ

『あ、ヨゴシユタインも暴れる』

ワタシニフレルナ!↑立花 響

マーベラス

「響まで何があつた？」

セレナ

『そ、それは』

・マーベラス

「今からそっちに行くから待ってろ」

・セレナ

『は、はい』

ピッ

マーベラス

「今からセレナ達と合流するぞ」

キタネイデス

「我輩も行くぞう」

マーベラス

「天羽 奏お前も来い」

天羽 奏

「あ、ああ、分かった翼が来てると思うし。」

マーベラス

「殺しはしてないと思うが何人病院送りかな？」

マーベラス達はセレナから話を聞いて合流する為甲板に向かい先ずはマジピンクになりキタネイデスを人間にさせた（人間姿は『銀魂佐々木異三』）

「ゴーカイガレオン／甲板」

モバイレーツ

？メーガレンジャー!?

メガレツド

「ほら後ろに捕まっとけよ？」

天羽 奏

「あ、うん」

ヨゴシユタイン

「よし、我輩が作った飛行リユックで飛ぶぞよ」

マーベラスはメガレツドになり天羽 奏をサイバースライダー後ろに乗せメガレツドとヨゴシユタインはセレナ達の元に向かった。

新入り6

「マーベラス達と別れたセレナ達」

「街／デパート」

ケガレシア

「さ、次に行くでおじやるよ響♪」

立花 響

「はいケガレシアさん」

セレナ

「あ、あの。」

ケガレシア

「何でおじやる？（ゴゴ）」

セレナ

「何でヨゴシユタインさんじゃなくて荷物持ち何ですか？（オモイヨ）」

ケガレシア

「天羽 奏を海賊に勧誘した罰でおじやるが？（ゴゴ）」

セレナ

「ウツ（タジ）」

ヨゴシユタイン

「今のケガレシアに何言ってもこっちに飛び火が来そうなり」

ケガレシアは響のストレス発散させるため面白い物を楽しませていたがセレナは天羽奏を海賊勧誘した罰で荷物持ちになっていた。

ケガレシア

「さ、響面白い物楽しむでおじやるよ♪」

立花 響

「はい！（マーベラスさん早く来ないかな〜？）」

???

「響？」

立花 響

「え。」

ケガレシア

「どうしたでおじやるか響？」

立花 響

「な、何でアンタがこ、こんな所に
 〃小日向 未来〃」

小日向 未来

「ひび」

立花 響

「近付くな裏切り者！」

ケガレシア

「ちよ、ちよつとひび
 〃」

ビュン！

ケガレシア

「早!?!」

ヨゴシユタイン

「光の速さなり!?!」

セレナ

「み、見えない。〃」 ↑荷物が顔の前にある為何が起こったのか見えない状態

響が小日向・未来という名を出したと同時に響は怒り出しケガレシア達を置いて走って行った。

ワーナンダナンダ!

シツナイナノニカゼー!

ケガレシア

「お、追うでおじやるー!」

ヨゴシユタイン

「ま、待つなり〜」

セレナ

「み、見えてないけど。ま、まって〜」

小日向 未来

「響」

「街／公園」

ドドドド!

ケガレシア

「ま、待つでおじやる響ーあ、マーベラス!」

立花 響

「!?マーベラス。さん? (キイイ!)」

ケガレシア

「捕まえたでおじやるー！（トウ！）」

立花 響

「わあ!?!（ドゴ）」

ケガレシアは逃げる響をマーベラスの名を出したら響は止まりケガレシアは響に飛び付いた。

ケガレシア

「はあ、はあ、はあ、ひ、響どうしたでおじやるか？」

ヨゴシユタイン

「やつ、やつと追いついたなり〜（ゼエゼエ）」

セレナ

「ひ、響此処にいるんですか〜？」

ヨゴシユタイン

「セレナよく追いついたなりなそんな状態で
■■■■」

セレナ

「け、気配で（ハアハア！）」

ヨゴシユタイン

「以外と凄いななりな
■■■■」

立花 響

？

「マ、マーベラスさんは（キョロキョロ）」

ケガレシア

「マーベラスは訓練所の修理中でおじやろう？」

立花 響

「そ、そうでした（シユン）」

ケガレシア

「響それでさつきはどうしたでおじやるか？あの娘とは知り合いでおじやるか？」

立花 響

「あの女は、小日向 未来私の元親友だった奴です（ギリ）」

ケガレシア

「そうでおじやったか、マーベラスには後で？」

ダダダダ！

突然ケガレシア達を黒服の集団が囲った。

ケガレシア

「何でおじやるかお前達？」

ヨゴシユタイン

「もしや」

セレナ

「何ですか一体？荷物一旦置きますね（ドサ）」

男

「突然すまない君達に危害を加える気はない大人しく我々と付いてきてくれないか？」

ヨゴシユタイン

「マーベラスが言っていた『特異災害対策機動部』の連中のようなり」

男

「な、何故我々組織の名を!？」

ケガレシア

「ナビイの情報は完璧でおじやるね♪」

セレナ

「え〜と得意災害対策起動部でしたっけ付いて行くか行かないかは私達の船長の判断に従います今は此処にはおら」

立花 響

「セレナさん私先に帰ります」

セレナ

「ちよつ、響!？」

ケガレシア

「今度はどうしたでおじやる響？」

立花 響

「会いたくない女がいるので」

ケガレシア

「ああ、確か風鳴 翼でおじやったか」

ヨゴシユタイン

「確かに帰りたくもなりたいたいな」

風鳴 翼

「ま、待て!奏は無事なのか!?(ガシイ!)」

セレナ、ケガレシア、ヨゴシユタイン

「「アーーーー!?!?!」」

立花 響

「わ、わ、私に触るな!!」

男

「翼危ない!(ドゴオ!!)」

男

「ガハア!!」

風鳴 翼

「叔父様?!」

風鳴 翼が響の肩を掴んだが響が風鳴 翼を殴りかかろうとしたが男が風鳴 翼の身代わりになり男は殴られ公園の遊具まで吹っ飛んだ。

ケガレシア

「響?!:落ち着く」

立花 響

「私に触るなー!」

セレナ

「あちやく」

ヨゴシユタイン

「響暴走したなりな」

ケガレシア

「今すぐマーベラスに連絡するでおじやるよ!?あ、お前妾の響に無断で触るなでおじやるー!」

セレナ

「ケガレシアさんまで!？」

ヨゴシユタイン

「我の仲間は何するなりー!」

響が暴走し黒服達に殴り掛かってしまった。ケガレシアは響が暴走したからマーベラスに連絡をセレナに任せたが黒服が響に掴みかかったがケガレシアは響に触れた黒服を殴った。ヨゴシユタインも響に掴みかかった黒服を殴った。

セレナ

「ヨゴシユタインさんまで!？もう、収集がつかない!？（ピッ）」

ブルル

ピッ

ズドオオオオオン!!

セレナ

「あ、マーベラスさん実は変な黒服の人達が私達を捕まえようとちよつと触らないでください!？（バキ）」

ドカバキグシャ!

ワー!ワー!

ケガレシア

「お前達覚悟するでおじやるー！」

ヨゴシユタイン

「我の仲間達に何するなりー！」

立花 響

「私に触れるな!!」

マーベラス

『響まで何があつた?』

セレナ

「そ、それは。」

セレナは何があつたかマーベラスに話した。

マーベラス

『今からそつちに行くから待つてろ』

セレナ

「は、はい〜(ピッ)」

ドカバキグシヤ!

セレナ

「響ーマーベラスさんが来ますよー!」

立花 響

「!? (ピタ)」

セレナ

「本当だよ響く今連絡したから来るよく」

立花 響

「♪ (ブンブン)」

セレナ、ケガレシア

「(猫化した響可愛い) (〃〃)」

キイイイ!

セレナ

「あ、マーベラスさん来たよひび」

メガレット

「いつまで引っ付いてんだ天羽」

天羽 奏

「む、無理言うな空中散歩何て初めて何だから (ガタガタ)」

サイバースライダーに乗って来たメガレットと後ろに捕まっていた天羽 奏がセレ

ナ達と合流した。

マーベラス

「で、何が響、目が猫目になつとるぞ？（ナニソノミミトシツポ）」

立花 響

「マ、マーベラスさんから離れろ！このビッチー！（シャー！）」

天羽 奏

「え!?!」

マーベラス

「何処で覚えたそんな言葉!?!」

キタネイデス

「何ぞよコレは」

交渉 1

〔街／公園〕

●立花 響

●マ、マーベラスさんから離れろ！このピッチー！（シャー！）

●天羽 奏

「え!？」

バリ!!

天羽 奏

「ギャー!!」

風鳴 翼

「か、奏!？」

ガシッ!

立花 響

「マーベラスさあん（ゴロニヤ〜♪）」

マーベラス

「……から説明しろセレナ」

セレナ

「は、はい」

マーベラス

「成程だから今回響がこんなに猫化して腕に引っ付いているのか」

立花 響

「♪（ゴロゴロ♪）」

セレナ

「そうなんですよ……（ツカレタ〜）」

合流したマーベラスはセレナに事情を聞きマーベラスの腕に響が引っ付いている理由も聞いた。

キタネイデス

「ケガレシア、ヨゴシユタイン、お前達が付いていながら何てざまなり……まあ、事情を聞いたらしようがないなりが」

ケガレシア、ヨゴシユタイン

「「面目ないでおじやる（なり）（シユン）」

キタネイデスはケガレシア、ヨゴシユタインを少し叱りながら宇宙海賊組の椅子を

マーベラス達の後ろに置いた。

・マーベラス

「にしても得意災害対策随分と弱小な組織だな」

・風鳴 翼

「何だと!？」

マーベラス

「たかが3人にボコボコにされる何て弱すぎだろ」

男

「み、耳が痛いな確かに君の言う通り俺達組織は弱小だ」

マーベラス

「で、顔大丈夫か天羽？」

天羽 奏

「うん。(マツシロ)」

マーベラス

「ビッチって言われるは響に引っ掛かれるわで心折れかけてるな」

キタネイデス

「無理ないぞよ」

マーベラス

「で、得意災害対策の指令　〃風鳴　弦十郎〃　よく生きていたな響の暴走パンチをくらったのに。」

セレナ

「確かに。」

ケガレシア

「きつとゴリラの細胞が合わさった人間でおじやるよ」

マーベラス

「人間辞めてるな」

キタネイデス

「いやいやゴリラから人間に改造手術されたぞよ」

ヨゴシユタイン

「いやいや本当は人間では無くゴリラから　〃獣獣全身変〃　した可能性もあるなり」

イヤイヤ

風鳴　弦十郎

「いや、俺はれっきとした人間だ。」

宇宙海賊組

『ええ!?嘘だろ(ぞよ)(おじゃろ)(なり)!?』

風鳴 弦十郎

「酷いな。」

マーベラス

「で、お前等俺達宇宙海賊を探してたようだが天羽 奏は返したぞ心折れてるが」

天羽 奏

「(シユン)」

マーベラス

「セレナこの塗り薬天羽に塗ってやれ(スツ)」

セレナ

「あ、はい」

風鳴 弦十郎

「(奏に何があつたんだ?)」

マーベラス

「んじや話し続けるぞ」

風鳴 弦十郎

「あ、ああ。」

弦十郎はマーベラス達にこの地球人類の事を話した。

「マーベラス

」

「風鳴 弦十郎 ？」

「ど、どうだろうか？」

「マーベラス

」

「キタネイデス

」

「何ぞよ？」

「こいつらと組むメリットあるか？」

「キタネイデス

」

「無いぞよ。」

「な!？」

「キタネイデス

「当然ぞよ我々宇宙海賊と貴様等得意災害とは天と地の差ぞよ我等の船長キャプテン

マーベラスは戦闘に関しては良いし死線を幾つも潜り抜けているぞよ」

ヨゴシユタイン

「それだけではない此奴はお前達では出来ない事をやっているなり」

風鳴 翼

「出来ない事だと?」

ヨゴシユタイン

「それは。」

マーベラス

「ヨゴシユタイン。それは今のこいつらに言わなくてもいい」

ヨゴシユタイン

「分かったなり確かに今のこいつらに言う必要が無いなりな」

ケガレシア

「まあ、マーベラスは戦闘もそうでおじやるが料理や掃除、整備が出来る子でおじやるよ」

♪

キタネイデス

「まあ、マーベラスの次に凄いのは新参者ながらそこに猫化してる立花 響なり」

セレナ

「え!? 私響にいつの間にか抜かれてたんですか!？」

宇宙海賊組（立花 響、セレナ以外）

『自覚なかったのか?（ぞよか?）（なりか?）（のでおじやるか?）』

セレナ

「え〜いつの間に抜かれたんだろ〜?（フフツ）」

マーベラス

「（全然悔しそうじゃないな）まあ、響は戦闘は俺には劣るが努力家の馬鹿で家事や掃除とかも出来る奴だ（ナデナデ）」

立花 響

「♪（ゴロゴロ♪）」

ケガレシア

「それに響が海賊に入る事になったのはお前達のせいでおじやるよ。」

風鳴 翼

「な、何故私達のせいなんだ?」

ケガレシア

.....?

「本気で言っておるんでおじやるか.....（ゴッ!）」

マーベラス

「キタネイデス、ヨゴシユタイン、ケガレシアを抑えろ」

ヨゴシユタイン

「ケガレシア落ち着くなり」

キタネイデス

「落ち着くぞよ」

マーベラス

「所で風鳴 翼」

風鳴 翼

「な、なん（ゾクツ）」

マーベラス

「世間知らずもいい加減にしろよ（ゴツ！）」

ゾクウ！

風鳴 翼

「あ、ああ（ドサ）」

風鳴 翼はマーベラスの殺気で腰が抜けた。

風鳴 弦十郎

「（な、何て殺気だ。さっきの男がいい掛けた事は間違いない殺しだ迷いなく人の命を奪

う。響君とセレナ君やあの三人は何故あんな男に従っているんだ？」

マーベラス

「風鳴 弦十郎 (ゴゴ!)」

風鳴 弦十郎

「な、何だ (ゾクツ!)」

マーベラス

「ちゃんと教育しとけよ (ゴツ!)」

風鳴 弦十郎

「す、すまない」

セレナ

「マーベラスさんその殺気抑えてくださいヒビネコ怯えていますよ?」

ヒビネコ

「グス (ビクビク)」

マーベラス

「しょうがねえだろ殺気出さなかったら ヒビネコが風鳴 翼の喉元を噛み付こうとしてたんだぞ (ヤレヤレ)」

ヒビネコ

「アワアワ（ビクビク）」

マーベラス

「まあ、お前等の目的は俺達宇宙海賊と手を組みたいようだが
組みたいか？」

お前等コイツ等と手を

元三大臣

『いやぞよ（なり）（おじやる）』

マーベラス

「ヒビネコお前はコイツ等と手を組みたいか？（ナデナデ）」

ヒビネコ

「にゃ」

立花 響

「イヤです!!マーベラスさんの頼みや命令でもイヤです!!」

マーベラス

「だとは（キーン）」↑至近距離だったため

セレナ

「あ、あの私の意見は？」

マーベラス

「お前の意見はどうせ手を組もうだろ？」

セレナ

「ウツ!?(バレットル)」

マーベラス

「お前のお人好しは今に始まった事じゃないからな」

セレナ

「いや〜それ程でも〜(〃)」

マーベラス

「褒めてねえよ。ん？」

ガチャ

ドン!

男

「何!?!」

バキイ!

マーベラスはゴーカイガンを構え座っている場所から撃ちマーベラスをスナイパーライフルで撃ち殺そうと男はマーベラスがゴーカイガンで撃った弾が男の脳天に当たり男は絶命した。

マーベラス

「フン、〃風鳴 不動〃の爺の奴手を組むのを拒否したからってスナイパーで殺そうとするか普通」

ジツ

海賊組は風鳴 弦十郎をジツと見た。

風鳴 弦十郎

「(この公園からかなりの距離がある筈だぞ) い、いや、俺達は知らない！」

マーベラス

「そうだぞお前等風鳴 弦十郎は関係無いぞ風鳴 不動の個人の判断だろ」

風鳴 弦十郎

「な、何故親父の」

男

「キャプテンマーベラス！」

得意災害対策組、海賊組

『?』

男 1

「動くなよ」

男2

「動いたらこの母娘を殺す」

母娘

『ひう。(ガタガタ)』

いきなり男二人組が銃を母娘に突き付けて現れた。

得意災害対策組

『!!?』

元3大臣、立花 響

『アワワワ(ガタガタ)』

・セレナ

「(ゴッ!)」

・マーベラス

「知らね(フ)」

交渉2

「公園」

ケガレシア

「お、お前悪い事は言わないでおじやる今すぐ人質開放するでおじやるよ！」

キタネイデス

「そ、そうぞよ！」

ヨゴシユタイン

「命大事になりよ！」

立花 響

「ピッ!?(ゾクッ!」

マーベラス

「はあ、死んだなあおの二人大丈夫か響？」

立花 響

「(コクコク!)」

男1

「おい！勝手に喋るな動くなど言ってるのに何で動く喋ってたよ！」

男2

「人質がどうなってもいいのかよ!？」

マーベラス

「いいぞ（シレ）」

全員

『え!?!』

マーベラス

「当たり前だその人質俺の知り合いでもなんでも無い俺に何のメリットがあるんだ？」

3大臣

『いやまあ、そうなんだけど。』

風鳴 翼

「海賊貴様人質に何て事を!？」

マーベラス

「おいおい、俺達海賊は善人者じゃねえ何勘違いしてんだ？」

3大臣

『そうだそうだ（おじやる）（ぞよ）（なり）』

風鳴 翼

「うだ、だが人質がいるんだ妙な動きはしないほうが
マ―ベラス
」

「それだつたらもう」

ジャキン!!

男二人

「!?!」

セレナ

「ウゴクナ」

立花 響

「ヒツ!セ、セレナさんいつの間私のサーベルを!」

セレナはいつの間にか響のサーベルを取り人質に取っていた二人の男の首筋にサーベルを突き付けていた。

マーベラス

「セレナの奴人質に取った奴見たらキレるからな」

3大臣

『あちや〜』

男1

「こゝこの女いつの間に」

セレナ

「ヒトジチヲカイホウシナサイサマナクバ」

マーベラス

「何でキレると片言になるんだ彼奴？」

立花 響

「マーベラスさんキレた時のセレナさん怖くないんですか？」

マーベラス

「それでも船長の看板背負ってんだ怖いとは思わねえよ」

キタネイデス

「流石ぞよ」

ヨゴシユタイン

「海賊の鏡なり」

マーベラス

「まあ、それはそうと何で“マグマ星人”と“ナツクル星人”がいるんだ？（“↑ちよつと嬉しい”）

海賊組（セレナ以外）

『え!?!あの二人マグマ星人とナツクル星人だったの!?!（おじやるか!?!）（ぞよ!?!）（なり!?!）』

マグマ星人

「ば、バレていたか」

ナツクル星人

「チィ!」

マーベラスに言われ男二人は宇宙人マグマ星人、ナツクル星人に姿を変えた。

風鳴 翼

「な、何だ彼奴等は」

マーベラス

「で、お前等が何でいるのか詳しく知りたいんだが人質を開放して話すか開放せずセレナに首を斬られてくたばるかどちらか選びな」

ナツクル星人

「わ、分かった」

マーベラスに言われナツクル星人マグマ星人は人質を開放した。

マーベラス

「さつさと失せる巻き込まれたくなければな」

母親

「は、はい」

マーベラスに言われ母娘はその場を離れた。

マーベラス

「で、お前等何で地球に来た？」

キタネイデス

「大方此奴等の怪獣養成所を破壊された事を根に持っているぞよ」

マグマ星人、ナツクル星人

「ギク!!」

マーベラス

「くだらん、そもそも怪獣養成所破壊したのセレナだしな」

セレナ

「当然です。『レッドギガス』。『ブラックギガス』。『ブラックキング』。を使って侵略計画情報をナビイさんから聞いたので私個人で養成所を破壊しました」

マーベラス

「コイツキレたら手に負えんからなまさかゴークイガレオン勝手に使って養成所破壊したんだよな」

立花 響

「だ、大胆な事をしますね。」

マーベラス

「で、お前等俺達に喧嘩してきたでいいの？」

マグマ星人

「そうだよ」

ナツクル星人

「人質を取っていた状態で身動きの取れないお前達を殺れると思ってたのに」

マーベラス

「迷惑通りにはいかなくて残念だったな」

セレナ

「マーベラスさんこの二人の相手は私がやります」

マーベラス

「好きにしろ」

マグマ星人、ナツクル星人

「お前等出て来い!!」

ドタドタ!

立花 響

「ワッ!? 同じ顔がいっぱい!」

マーベラス達の前に複数人のマグマ星人、ナツクル星人が現れた。

セレナ

「じゃあ響、マーベラスさん行きますよ」

マーベラス

「へいへい」

立花 響

「わ、分かりました」

カチ×3

マーベラス、セレナ、立花 響

「「「ゴーカイチェンジ!!!」」」

モバイレーツ? 3

??? ゴーカイジャー
!!! ???

ゴーカイピンク

「ゴーカイピンク!」

ゴーカイイエロー

「ゴーカイイエロー!」

ゴーカイレッド

「ゴーカイレッド!」

ゴーカイピンク

「海賊戦隊!」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー、ゴーカイレッド

「「「ゴーカイジャー!!!」」」

ゴーカイピンク

「ド派手に行きます!」

ゴーカイレッド

「何でアイツが全部取るんだよ」

ゴーカイイエロー

「アハハ、マーベラスさんいきましょ？」

ゴークイレッド

「たく、わーったよ！」

ケガレシア

「響ー頑張るでおじゃる〜」

キタネイデス

「マーベラス、油断大敵ぞよ〜」

ヨゴシユタイン

「セレナ〜頑張るなり〜」

風鳴 翼

「わ、私達はどうすれば？」

風鳴 弦十郎

「此処は改めてマーベラス君達の実力を見る此処は見物しよう」

天羽 奏

「立花 響 ．．．アタシのせいで ．．．」

海賊VS暗黒宇宙人1

〔公園〕

ガキイ!

ゴーカイレッド

「ほう、中々やるな（ギチギチ!）」

マグマ星人1

「舐めるな海賊風情が（ギチギチ!）」

ゴーカイレッド

「だが。」

ガキヤ!

マグマ星人1

「!？」

ドドン!

ドサ!

ゴーカイレッド

「まだまだだな」

ゴーカイレッドはマグマ星人1と鏝迫り合いをしていたが片方の手に持っている
ゴーカイガンでマグマ星人1を至近距離で撃ちマグマ星人1は倒れた。

ゴーカイイエロー

「ゴーカイチエンジ！」

モバイレーツ

？ シーンフォギア!?

ゴーカイイエロー

「ガングニール！」

ゴーカイイエロー

「いっくぞー！」

ナツクル星人1

「舐めるな小娘！」

ドンドン！

ゴーカイイエロー

「ハア！（ギンギン！」

ナツクル星人1

「なあ！嘘だろ弾かれた!？」

ゴーカイイエロー

「そつちこそ私を舐めないで！（ズドオ！）」

ナツクル星人1

「グホオ！（ズドオ！）」

ゴーカイレッド

「おゝ飛んだなゝ」

ガングニールを装着したゴーカイイエローはナツクル星人1が銃を放ったがゴーカイイエローはそれを弾きナツクル星人1をぶつ飛ばし壁に激突した。

ゴーカイレッド

「さて、決めるか。」

ゴーカイイエロー

「はい！」

マグマ星人達、ナツクル星人達

『ウオオオオオオ!!』

ガチャン!!

ゴーカイガン×3、ゴーカイサーベル

「????? ファーイナルウエーブ!!!!?????」

「ゴークイレッド、ゴークカイエロー」

「トリプルゴークイシュート!!」

ズドオオオオオ!!

ナツクル星人達

『ギャアアアア!!』

ゴークイレッド

「ゴークイシューツシュー!」

マグマ星人達

『ギャアアアア!!』

ゴークイレッド、ゴークカイエローはゴークイガンとゴークイサーベルにレンジャキーを挿し込みチャージしゴークイレッドとゴークカイエローはゴークイガンでナツクル星人達をゴークイガンで撃ち次にゴークイレッドはゴークイサーベルでマグマ星人達を斬撃で斬り裂いたが

バササアアア!!

ゴークイレッド

「あ、取りこぼした」

ゴーカイイエロー

「マーベラスさんともあろう方が油断しましたね」

ゴーカイレッド

「うるせえ（ゴチ）」

ゴーカイイエロー

「あだ」

ゴーカイレッド

「蝙蝠もどきが」

ゴーカイイエロー

「ナツクル星人達は私が始末しときますね」

ゴーカイレッド

「『抜劍』するなよ」

ゴーカイイエロー

「はくいこんな奴等に使う必要ありませんからね代わりに」

カチ×2

ゴーカイレッド、ゴーカイイエロー

「『ゴーカイチエンジ!!』」

モバイレーツ

?メーガレンジャー!?

モバイレーツ

?デーンジマン!?

メガレッド

「メガレッド!」

デンジイエロー

「デンジイエロー!」

メガレッド

「派手に落とす!」

デンジイエロー

「素早く殴る!」

ゴーカイレッドの斬撃を逃れたマグマ星人達を追撃する為ゴーカイレッドは「電磁戦隊メガレンジャー」メガレッドになり

ゴーカイイエローはナックル星人達を追撃する為「電子戦隊デンジマン」デンジイエローになった。

海賊VS暗黒宇宙人2

?公園/上空?

メガレット

「メガスナイパー」フン!

ドン!ドン!

マグマ星人1

「グワツ!」

マグマ星人2

「グオ!」

メガレット

「まだまだ行くぜ!」ドリルスナイパーカスタム」マルチ03」シュート!」

ズドオオオオ!!

マグマ星人達

『ギャアアアア!!』

メガレット

「まだまだド派手に行くぜ!!」

カチャ!

メガレット

「ゴーカイチェンジ!」

モバイレーツ

? サイバー怪獣!?

メガレット

「サイバーゴモラアーマーアクティブ! バラバラになりやがれ! 怒臨気雄峰突(どりんきおほうつく)!」

マグマ星人達

『ギヤアアアア!!』

メガレット

「地上なら支えられる物があるが空中には無いからな」

メガレットはドリルスナイパーカスタムでマグマ星人達を撃ち続いてサイバーゴモラアーマーを装着して怒臨気雄峰突(どりんきおほうつく)でマグマ星人達を巻き込みマグマ星人達はバラバラになり全滅した。

メガレット

「ウシ、終わり」

「公園／地上」

デンジイエロー

「レディ・ゴー！（ギョーン！）」

ナツクル星人1

「な、や、奴はど（ドゴォ！）」

ナツクル星人2

「え!?!（ズドォ！）」

ナツクル星人3

「どこ（バゴォ！）」

デンジイエローは素早い動きながらナツクル星人達を殴りナツクル星人達を一撃で倒した。

ケガレシア

「いや〜響凄いでおじやるな〜」

キタネイデス

「また打撃力がアップしているぞよ」

ヨゴシユタイン

「我や戦隊達やウルトラマン達に鍛えてもらったかいがあつたなりな（シミジミ）」

ナツクル星人 4

「そ、そうだ彼奴等を人質にすれば奴も抵抗出来ない筈だ！」

3大臣

「「アア？」」

ナツクル星人はよりにもよつて3大臣を人質にしようとしたが

ドゴバキグシヤ！

ナツクル星人達

『グフア!?!』

フルボツコにされた

天羽 奏

「強!?!あの三人マーベラスの言う通り強!?!」

風鳴 翼

「あの三人は一体

パッ

キタネイデス

「我輩は『害気大臣キタネイダス』ぞよ」

ケガレシア

「妾は『害水大臣ケガレシア』でおじやる」

ヨゴシユタイン

「我は『害地大臣ヨゴシユタイン』なり」

元3大臣

「『我等元蛮機族ガイアークの三大臣ぞよ（おじやる）（なり）！！』」

風鳴 翼

「な、な、何だあの三人変わったぞ!?!」

天羽 奏

「あれがああの三人の本当の姿だ」

風鳴 弦十郎

「本当の姿だと。」

フルボツコしたりした後3大臣は本来の姿になった。

3大臣

「『エツヘン！ぞよ（おじやる）（なり）』」

ウー！

3 大臣

「ん？あ！ノイズだ！」

デンジイエロー

「!?」

デンジイエロー達の前にノイズが現れた。

「公園／上空」

ウー

メガレット

「？」

バササ！

メガレットの前に翼ノイズが現れた。

メガレット

「フン、まだ暴れ足りなかったんだ。まだまだド派手に暴れるぜ！」

男

「さて、あの海賊達が暴れている間に」

ガチャ!

ブワア!

???

「始めるか」

謎の男が黒いアイテムを顔の前に置き黒い霧が男を包み込み男は姿を変え???は何かの魔法陣をゴーカイレッドとゴーカイイエローが倒したナツクル星人とマグマ星人の死体を魔法陣に吸い込ませた。

???

「フッフ、キャプテンマーベラスいい退屈しのぎになるといいねえフッフ♪」

海賊VS暗黒宇宙人3

「公園／地上」

キタネイデス

「ノイズとは多少は驚いたぞよが」

ヨゴシユタイン

「大した事無いなりな」

ケガレシア

「そうでおじやるな」

得意災害対策組

『』

風鳴 翼

「そ、そんなノイズはシンフォギアでしか倒せない筈なのに」

デンジイエロー

「ケガレシア姉さん達に掛ければノイズなんて相手になりませんよね」

ノイズが3大臣達の前に現れたがあっさり3大臣とデンジイエローが倒した。

ケガレシア

「響に褒められると照れるでおじやるな♪」

ヨゴシユタイン

「そうだセレナは、問題ないなりな」

ゴーカイピンク

「大した事無いですね」

マグマ星人、ナツクル星人

「グフ!？」

ゴーカイピンク

「トドメです」

ガチャ×2

ゴーカイサーベル×2

??フア〜イナルウエ〜ブ
!!??

ゴーカイピンク

「ゴーカイダブルスラーツシュ!!」

マグマ星人、ナツクル星人

「ギヤアアアア!!」

ゴーカイイエロー

「科学戦隊ダイナマン」になってますね」

キタネイデス

「回転してるぞよな」

ヨゴシユタイン

「ウルトラマンメビウス」を参考にしてるなりな」

ゴーカイイエロー

「流星はマーベラスさん！（パア！）」

モバイレーツ

？「ジエーツトマン！？」

ダイナレッドはレッドホークになり翼を広げ地上に降りた。

レッドホーク

「あく暴れた暴れた」

ゴーカイピンク

「お疲れ様です」

ゴーカイレッド

「お、そつちも終わったのか」
3大臣も暴れたのか

3 大臣

「「エツヘン！」」

ゴークアイレッド

「まあ、終わったし」

ゴークアイピンク

「マーベラスどうしました？」

ヴン

ズオオオオオオ！

キタネイデス

「な、何ぞよ!? マグマ星人とナツクル星人の死体が吸い込まれてるぞよ!」

ゴークアイピンク

「アレは『魔法陣』?」

ゴークアイレッド

「あの陣はまさか」

???

『フフフ、さあ、生贄はこれで十分現れる。『マガゼットン』『マガバツサー』』

マガゼットン

「ゼットンーン！（ピポポポー！）」

マガバツサー

「ギエエエエー！」

魔法陣から巨大怪獣マガゼットンとマガバツサーが現れた。

ナビィ

『あの怪獣はマガゼットン！マガバツサーじゃないか何でこの地球に!?!』

●ゴークイレッド

「●（あの黒い魔法陣まさかあの野郎がこの地球にいんのか？）」

●ゴークイピंक

「マーベラスさん！ゴークイガレオンを」

ゴークイレッド

「チツ、ワーツたよ（ピピピ！）」

ゴークイガレオン

？ゴークイガレオン!?

ゴークイイエロー

「よーし頑張るぞー！」

ゴークイピंक

「やりましょう」

ゴーカイレッド

「とつとと終わらせる」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエローはゴーカイガレオンに乗り込んだ。
だ。

キタネイデス

「頑張るぞよー」

ケガレシア

「さ、お前達さつさと避難誘導するでおじやるよ」

風鳴 弦十郎

「わ、分かった」

風鳴 翼

「な、何故怪獣が」

天羽 奏

「何なんだよこれ」

海賊VS怪獣1

「公園」

バエ

「巨大戦来ましたー！ー！！」

3大臣、ナビィ、対策本部組

「『ウオオオ!?』」

バエ知ってる組

『あくびつくりした〜』

バエ知らない組

『ハエが喋ってるー!?!』

バエ

「いい加減なれて下さいよ」

ナビィ

『無理言わない』

風鳴 弦十郎

「あのハエもそうだがメカトリも喋ってる。」

バエ

「おや、この地球に『ゴリー・イエーン』の親戚がいたのですか？」

風鳴 弦十郎

「ゴ、ゴリー・イエーン？」

バエ

「あ、写真あるのでどうぞ」

全員

『(どこから出した?)』

バエは何処からか写真を出した写真は『獣拳戦隊ゲキレンジャー』メンバー達だった。

バエ

「あ、その黒くて眼鏡を掛けている方がゴリー・イエーンです」

対策本部組

『ブツ!?!』

天羽 奏

「ブクク!おっ、オッサン
..... (ブクク!)」

対策本部1

「か、風鳴指令（プヒー！）」

風鳴 弦十郎

「に、似ていないだろ!?」

3大臣

「似てるなり（おじゃる）（ぞよ）————！（ダーヒヤヒヤヒヤヒヤ！ゲラゲラ
！）」

バエ

「おや、マスターゴリーの親戚ではなかったのですか？」

ナビィ

『一応人間らしいよ』

バエ

「えー!?嘘でしょー!?」→

ナビィ

『はいはい飛び上がるな、ゴーカイガレオン合体するよ』

バエ

「あ、そうですね」

全員

『(切り替え早!?)』

バエ

「ではでは改めまして巨大戦の実況は私激獣フライ拳のバエと」

ナビィ

『え〜とサポートメカ鳥ナビィと』

3大臣

「元蛮機族ガイアークの三貴族がお送りするぞよ(なり)(でおじやる)」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「海賊合体!!!完成!!!ゴーカイオー!!!」

バエ

「出たー！ー！ー！！ゴー！カイ！オー！」

海賊組

「『『うるさい』』」

対策本部組

『(がっ、合体して、ロボットになった!)』

バエ

「ではでは対戦は我等がゴーカイオーのお相手は」

マガゼットン

「ゼットン! (ピポポ!)」

マガバツサー

「ギエエエエエ!」

バエ

「ブツ!? な、何でマガゼットンとマガバツサーがこの地球にいるのですか!？」

ナビィ

『分かったら苦勞はしないよ』

バエ

「マガバツサーは何とかなりますがマガゼットンは豪獣ゴーカイオー」か「カンゼンゴーカイオー」にならなければなりませんませんが」

ナビイ

『「ウルトラマンベリアル」戦で「豪獣ドリル」と「マツハルコン」大破しちゃつてまだ修理が終わつて無いからな」』

バエ

「なんとと言っても「ゼットン」は「ウルトラマン」を倒したと記録がありましたからね

」

・ナビイ

『ゼットンはバリヤが厄介中の厄介だからねゼットンのバリヤをどうやって破るかが注目だね』

バエ

「そうですね通常でも厄介ですが魔王獣ですからバリヤもかなり強力の手筈です」

キタネイデス

「心配ないぞよ」

ナビイ、バエ

『『?』』

キタネイデス

「マーベラスはゼットンや他の怪獣達の研究を我輩達に相談やシミュレーションをして
いたぞよ」

ヨゴシユタイン

「マーベラスは海賊船長の看板を背負っているなり負ける事は無いなり」

ケガレシア

「そうでおじやるよそれにマーベラス一人が戦っているわけじゃないでおじやるから
ね」

対策本部組

『(何の話か分からん)』

バエ

「ゴーカイオーとマガゼットン、マガバツサーはお互い睨み合ったまま動かない
バササアアアア！
.....」

バエ

「先に動いたのはマガバツサー空に飛んだー！」

キタネイデス

「マガゼットンも動いたなりが」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「「『ゴーカイスターバースト!!!』」」

ドンドン!

バエ

「ゴーカイオーいきなり必殺技を放ったが」

マガゼットン

「ゼットン! (ピシイ)」

ガガン!

バエ

「マガゼットンバリヤを貼りスターバーストの攻撃を防いでしまったー!」

ヨゴシユタイン

「あ、危ないなり!？」

マガバツサー

「ギエエエエ!!」

ドカア!

バエ

「ゴーカイオー! 空中にいたマガバツサーに体当たりされふっ飛ばされてしまったー
!」

「ゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「チイ! 厄介なバリヤと空中体当たりやな攻防だ」

ゴーカイピンク

「ど、どうすれば」

ゴーカイレッド

「狼狽えんじやねえ！策ならある！」

ゴーカイイエロー

「どんな策何ですか!?!」

ゴーカイレッド

「ちよつと待ってろ（プルル）」

「公園」

ナビィ

『あ、マーベラスからだマーベラスどうしたの!?!』

ゴーカイレッド

『トリ！キタネイデスいるだろ!』

キタネイデス

「何ぞよ?」

ゴーカイレッド

『キタネイデス “デバイザー” 持ってるだろ?』

キタネイデス

「持ってるぞよが」 “サイバー怪獣” 出せばいいぞよね」

ゴーカイレッド

『ああ、〃バードン〃だ』

キタネイデス

「分かったぞよ！」

「[ゴーカイオー／コクピット]」

ゴーカイレッド

「よし！俺達は先ずは〃マジレンジャー〃キーを使う！」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「はい！」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「[レンジャーキーセット!!!レッツゴー!!!]」

ゴーカイオー

? 〃マジドラゴン!〃?

マジドラゴン

「ギャオオオオオ！」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー
「完成！ マジゴーカイオー!!!」

「公園」

キタネイデス

「マーベラスはマジドラゴンを出したぞよならこつちも」

デバイザー

?リアライズ!?

サイバーバードン

「ギエエエエエ！」

バエ

「おつと！ここでマジゴーカイオー！マジドラゴンと分離したぞ！キタネイデスはデバイザーでサイバーバードンを出したぞー！どうやらマジドラゴンとサイバーバードンでマガバツサーの相手をさせるようだ！」

キタネイデス

「行くぞよー！」

海賊VS怪獣2

「ゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレット

「ヨッシャー！マガバツサーはマジドラゴンとサイバーバードンに任せ俺達はマガゼットンに集中するぞ！」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「ハイ!!」

〔公園〕

バエ

「ゴーカイオー！マガゼットンにゴーカイケンを当てようとしたが！」

マガゼットン

「ゼットーン！（バリイ）
ガキイ！」

バエ

「防がれてしまったー！」

ナビィ

「マーベラス一体どうするんだろ？」

「上空」

マガバツサー

「ギエエエエエ！」

マジドラゴン

「ギイアアアアア！」

サイバーバードン

「ギイエエエエ！」

「公園」

ケガレシア

「キタネイデス！頑張るでおじやるよ！」

キタネイデス

「我輩頑張るぞよ！」

バエ

「空中ではマジドラゴン&サイバーバードンVSマガバツサーで空中戦が繰り広げられております！」

「空中」

マジドラゴン

「ゴツ！（ポオ！）」

マガバツサー

「ギエ！（バサ！）」

バエ

「マジドラゴン！ マガバツサーに火炎弾を放ったが風の防風で防いってしまったー！」

「公園」

キタネイデス

「あの防風厄介ぞよ」

ヨゴシユタイン

「こんな時 “害地副大臣” がいてくれたら

ケガレシア

「いない奴の事を言っても仕方ないでおじやる」

キタネイデス

「気に食わんが確かに害地副大臣は空中戦にたけてたぞよ」

ウー

ヨゴシユタイン

「ノイズなり!？」

ケガレシア

「こんな時に邪魔でおじやる！」

ノイズが再びヨゴシユタイン達の前に現れたが

???

「正三角形斬り」！（ザザン！）

ヨゴシユタイン

「今の技はまさか!？」

???

「ポクポクピーン害地副大臣ヒラメキメデス。ヨゴシユタイン様」

ヨゴシユタイン

「ヒ、ヒラメキメデス!？お、お前。何故この地球に」

ヒラメキメデス

「『ゴーオンジャー』に敗れたあの時私は彷徨いながらヨゴシユタイン様に再び使えた

いと強く。」

キタネイデス

「ヒラメキメデス！話は後でよ今すぐサイバーバードンを操縦するぞよ！」

ヒラメキメデス

「え？」

キタネイデスはヒラメキメデスにデバイザーを渡し説明をした。

キタネイデス

「分かったぞよ!？」

ヒラメキメデス

「は、はい。つまりあのマジドラゴンという龍を援護すればよろしいですね」

キタネイデス

「どうぞよあの防風を突破出来るのは空中戦を得意とするお前だけぞよ! やってくれるな!!」

ヒラメキメデス

「は、はい分かりました(迫力が凄いあの宇宙海賊の事を余程気に入っているのですね)」

バエ

「おつとキタネイデス選手いきなり登場したヒ、ヒラメキメデスデス?と交代するようだ!」

ヒラメキメデス

「ヒラメキメデス!名前を間違えるなハエ!？」

バエ

「呼びづらいですよ!」

ヒラメキメデス

「兎に角ヨゴシユタイン様の前に再び敗北姿を見せない為にも全力であのマガバツサーを倒してご覧に見せます!!」

キタネイデス

「我輩達は、雑魚処理するぞよ!」

ケガレシア

「了解でおじやる!」

ヨゴシユタイン

「ヒラメキメデス終わったらマーベラス達に紹介するなり」

ヒラメキメデス

「ええ、是非お願い致します」

「空中」

サイバーバードン

「ギイエエエエ!」

バエ

「な、何とサイバーバードンさつきとうつて変わりマガバツサーの防風に乗出し防風の波に乗り出しマガバツサーに近付いていったぞー!」

ボフツ!

サイバーバードン

「ギィエアアアア! (ボオ!)」

バエ

「サイバーバードンを纏ったー! これはサイバーバードン必殺技 〴〵バードンフェニックスアタックだー!」

マガバツサー

「!!? (ドガア!)」

バエ

「マガバツサー! サイバーバードンの必殺技バードンフェニックスアタックをモロにくらったー!! それに続いたのが!」

ビュン!

マジドラゴン

「ガアアアアア!」

バエ

「マジドラゴンだー! マジドラゴン! マガバツサーの周りを一周し白い魔法陣がマガバツサーを囲み」

ナビー

『マジドラゴンの必殺“マジバインド”だ!』

ズドオオオオン!

バエ

「マジドラゴン!マジバインドが決まりマガバツサーを倒したー!」

3大臣

「「ヤッター!!(バンザーイ!」」

ヒラメキメデス

「やりましたよヨゴシユタイン様!」

ヨゴシユタイン

「良くやったなりヒラメキメデス流石は私の副大臣ぞよ!」

ヒラメキメデス

「勿体ないお言葉です!」

バエ

「さて、空中戦の勝者はマジドラゴン&サイバーバードンの勝利だー!」

海賊VS怪獣3

「公園」

ナビー

「空中戦はオイラ達が勝ったけどマーベラスは？」

バエ

「さあ！一方地上ゴーカイオーVSマガゼットンは

□ □ □ □

「ゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「ガオレンジャーキーを使う！」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「ハイ！」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「レンジャーキーセット！レッツゴー！」

ゴーカイガレオン

? 牙吠!! ガーオリオン!!?

♪

ガオリオン

『ガオオオオオ!』

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「完成!! ガオゴーカイオー!!!」

ゴーカイピンク

「で、どうするんですか?」

ゴーカイレッド

「『チェンジマン』キーを使って同時攻撃をする!」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「ハイ!!」

ゴーカイレッド

「ガオリオン! 同時攻撃で行くぞ!」

ガオリオン

『ガオオオオオ!』

ゴーカイレッド

「ヨッシャ！行くぜ！」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「レンジャーキーセット！レッツゴー！」

ガオリオン

『（ゴオオオオオオ！）』

「公園」

バエ

「ゴーカイオー！ガオリオンと合体しガオゴーカイオーになったー！ガオリオン！
アニマルハートの体制だ果たしてマガゼットンのバリヤを破れるのかー！」

ナビィ

『ん？どうやらスターバーストと同時攻撃するようだけど』

キタネイデス

「いや、ただのスターバーストではなさそうぞよ」

「ガオゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレット、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「「「ゴーカイ!!! アニマルバズーカ」!!!」」

ズドオオオオオ!!!

ガオライオン

『ゴツ!』

マガゼツトン

「ゼツトーン!! (パリイ!」

ズドオオオオオ!!!

パキパキ!!!

マガゼツトン

「!!? (パリイン!」

ズドオオオオオオン!!!

「公園」

バエ

「やったぞガオゴーカイオー! アニマルハートとスターバーストの同時攻撃でマガゼツトンのバリヤを破ったー!」

ナビィ

『どうやら“電撃戦隊チェンジマン”のレンジャーキーを使ってゴーカイパワーバズーカとアニマルハートの同時攻撃でマガゼットンのバリヤを破ったようだね』

キタネイデス

「同時攻撃とは考えたぞよな」

ヒラメキメデス

「ですがまだ終わっていないようです」

マガゼットン

「ゼ、ゼットン」（ヨロ」

バエ

「な、なんと！マガゼットン！アニマルバズーカをくらったがまだ生きていたー!？」

「ガオゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「バリヤを破っただけかバリヤをもう貼れないようだこのまま“シンケンジャー”キーを使うー！」

ゴーカイピンク

「成程、〃シンケンゴーカイオー〃ですね！」

ゴーカイイエロー

「じゃあ早くやりましょ！」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「レ নিজァーキーセット！レッツゴー！」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「完成！〃シンケンゴーカイオー〃!!!」

「公園」

バエ

「デタアアアアア！シン！」

ナビィ

『ケン！』

ヨゴシユタイン

「ゴー！」

キタネイデス

「カイ！」

ケガレシア

「オー！」

対策本部組、ヒラメキメデス

『「ウオ!？」』

バエ

「ガオゴーカイオー！ 侍戦隊シンケンジャーのレンジャーキーを使いシンケンゴ
カイオーに合体したー！」

風鳴 翼

「侍!？」

天羽 奏

「何か格好いい」

バエ

「さあ！バトルもいよいよ終盤です！」

ヒラメキメデス

「一気に決めますね」

「シンケンゴーカイオー／コクピット」

ゴーカイレッド

「一気に決めるぞ！」

ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「ハイ!!」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「烈火大斬刀!!!」

ゴーカイレッド

「イクゼー!」

ゴーカイレッド、ゴーカイピンク、ゴーカイイエロー

「ゴーカイ!!!サムライ斬り!!!」

マガゼットン

!!?(ザアアアアン!!!)

ズドオオオオオン!!!

「公園」

バエ

「決まったー!!!シンケンゴーカイオーVSマガゼットンの勝者はシン!ケン!ゴー!カイ!オー!オー!だあああああ!!!」

海賊組

『イヤッターー!!!』

ヨゴシユタイン

「シンケンゴーカイオーの烈火大斬刀いつ見ても凄い剣なりな」

ヒラメキメデス

「あの太剣でマガゼットンを真っ二つですからね」

ケガレシア

「響達良く頑張ったでおじやるな（フンス!）」

ワイワイ!

マーベラス

「よう、キタネイデス、マガバツサーの相手ありがとな」

セレナ

「ありがとうねガオリオン」

立花 響

「またね」

ガオリオン

「ガオオオオ！」

マーベラス達は地上に降りてきてキタネイデス、ガオリオンにお礼を言っていた。

キタネイデス

「いや、吾輩は途中でこの者と変わってあのマガバツサーを倒してくれたぞよ」

ヒラメキメデス

「初めましてキャプテンマーベラス私の名は害地副大臣ヒラメキメデスと申します失礼ながら私を貴方方の仲間に加えていただきませんか？」

ヨゴシユタイン

「マーベラス我からも頼むなり」

マーベラス

「いいぞ（アツサリ）」

バエ

「アツサリと決めましたね」

マーベラス

「さつきトリから送られたデータを見たあそこまでサイバーバードンを操る奴は中々いねえからなだからヒラメキメデステメエを俺達海賊の仲間に加えてやる」

ヒラメキメデス

「ありがとうございます！ですが私はヨゴシユタイン様に忠誠を誓っておりますので」

・マーベラス

「それでも構わねえよ」

ヒラメキメデス

「ありがとうございます」

害地副大臣ヒラメキメデスはマーベラス達の仲間になった。

マーベラス

「んじゃ、そろそろ行くぜ」

海賊組

『は〜い』

マーベラス

「じゃあな対策本部またどっかで会おうぜ」

マーベラス達はゴーカイガレオンに乗り込みゴーカイガレオンはその場を去った。

風鳴 弦十郎

「余りの事で呆然として見る事しか出来なかったとは。」

風鳴 翼

「海賊 圧倒的すぎる」

天羽 奏

「キャプテンマーベラス アタシこの先どうすればいいんだ？」

???

「流石はマーベラスだ私が召喚したマガゼットンとマガバツサーを倒すとはね次はどのマガ怪獣でやるかな？」

「ゴーカイガレオン／船内」

ナビィ

『それにしても何でマガゼットンとマガバツサーがこの地球に現れたんだろ？』

マーベラス

「心当たりはある（あの時の黒い魔法陣忘れもしねえあの黒い野郎この地球にいる必ず俺がこの手で．．（ギリ）」

立花 響

「マーベラスさん？」

マーベラス

「!?何でもねえよ（ナデ）」

立花 響

「♪」

学校 1

「あれから二週間」

「リディアン学園／教室」

女子生徒 1

「ねえ、知ってる今日転校生来るんだって」

女子生徒 2

「転校生？この時期に」

女子生徒 3

「そうそう」

女子生徒 4

「♪」

女子生徒 1

「“板場”さん何を書いているの？」

板場 弓美は何かの絵を書いていた。

板場 弓美

「うん！最近ノイズと戦ってる宇宙海賊だよ！特にレッド様は私の推し何だ!!」
女子生徒1

「そ、そうなんだ（タジ）」

ガラ

先生1

「皆さん席に付いてください」

女子生徒2

「ヤバ」

バタバタ

先生が入って来て女子生徒達は席に座った。

先生1

「今日は二人の転校生を紹介します二人共入って来て下さい」

ガラ

小日向 未来

「!？」

先生1

「では、自己紹介お願いします」

セレナ・ド・ファミーユ

「初めまして、セレナ・ド・ファミーユ」

立花 響

「立花 響、ツヴァイ・ウイングコンサートの唯一の生き残りです」
女子生徒達

「!!?」

立花 響

「イタタタタ!? ひえ、ひえれなひゃん!? (セ、セレナさん!?) (ギユ)」

響はセレナにホッペを引つ張られた。

セレナ・ド・ファミーユ

「響、なぐにを言ってるのんですか (ゴゴ)」

立花 響

「はい!、ごめんなさい (ガタガタ!)」

セレナ・ド・ファミーユ

「はあ、先生、私と響が座る席は窓際ですか?」

先生

「え、あ、は、はい」

セレナ・ド・ファミーユ

「行くわよ響（ゴゴー）」

立花 響

「ピャイ！（ビクー）」

セレナ・ド・ファミーユ

「全く響、コンサートの事言いますか普通？（ゴゴー）」

立花 響

「す、すみません」

セレナ・ド・ファミーユ

「ハア、全くマーベラスさんは今は留守にしているから余り問題行動しないでください
ね？」

立花 響

「はい」

小日向 未来

「ひ、響」

立花 響

「!?小日向 未来」

小日向 未来

「」

セレナ・ド・ファミーユ

「あ、あの時デパートにいた娘かしら？」

立花 響

「はい。」

詳しくは新入り6を読んでね

セレナ・ド・ファミーユ

「まあ、何か話しをしたいのなら場所を変えた方がいいわよ？」

小日向 未来

「あ、え、は」

立花 響

「私はありません（プイ）」

小日向 未来

「響。」

坂場 弓美

「あの一！」

セレナ・ド・ファミーユ、立花 響

「？」」

坂場 弓美

「えくと立花 響さんだっけ？」

立花 響

「何？（ジト）」

坂場 弓美

「え、えつと貴女コンサートにいたんだよね？」

立花 響

「そうだけど（ゴゴ）」

セレナ・ド・ファミーユ

「（機嫌悪いな）」

坂場 弓美

「じゃあ！会ったのノイズと戦っていた赤い男を！」

立花 響

「会ったよ」

坂場 弓美

「本当!?(ズイ!」

立花 響

「う、うん。(タジ」

板場 弓美

「私あの赤い男の人に助けられたんだ!」

立花 響、セレナ・ド・ファミーユ

「ええ!?!ウソオ!?!」

板場 弓美

「まあ、助け方はアレだったけど。」

立花 響

「アレ?」

ゴーカイレッド

『邪魔だ退け!』

ドドン!

板場 弓美

「つて足元に銃を撃ってきて慌てて逃げたんだ」

セレナ・ド・ファミーユ

「だと思つた（ボソ）」

立花 響

「それで何でその赤い人が気になるの？」

板場 弓美

「その人に助けてもらったお礼したいんだよ」

・セレナ・ド・ファミーユ

・「止めた方がいいですよ」

・板場 弓美

「え？」

セレナ・ド・ファミーユ

「あの海賊さんにお礼なんてしたら怒られますからね」

立花 響

「こんな風だね」

ゴーカイレッド

『海賊に礼すんじゃないねえ（ピキ）』

立花 響

「つて、絶対いわれるよ」

板場 弓美

「え、そうなの。二人共やけに詳しいね」

セレナ・ド・ファミィユ、立花 響

「偶然知っただけです」

板場 弓美

「へえ。（この二人怪しい）でも、あの海賊何処に行ったのかな？」

マシンワールド1

「マシンワールド」

此処は「マシンワールド」この世界は色々なマシン達が住む世界である。

炎神スピードル

『ドルドルー！（ブオオオオオン！）』

炎神マツハルコン

『バリバリイー（ブオオオオオン！）』

炎神スピードル

『息子に負けてたまるかよー！』

炎神マツハルコン

『俺だってオヤジに負けてたまるかよー！』

マーベラス

「何やってんだ teme エラーー！」

ズドドドドオン！！

炎神スピードル、炎神マツハルコン

『ギャアアアア!!』

「炎神スピードル」と「炎神マツハルコン」は親子でレースをしていたがゴーカイガレオンからホーミング弾をレースしていた二人に当てた。

炎神ベアール

『スピードル! アンタ何しとるんや!! (ガア!)』

炎神スピードル

『え、えくと息子とレース?』

炎神ベアール

『マツハルコンは療養中やろうが! これで怪我が悪化したらどないするんや! (ガア!)』

炎神スピードル

『は、はい。ごめんなさい。』

マーベラス

「マツハルコン! テメエちゃんと医者への許可とか貰って走るならとにかく貰わずに走ってんじゃねえよ! (ガミガミ!)」

炎神マツハルコン

『す、すいません。』

炎神スピードルは女房の炎神ベアールに怒られていた。マーベラスは炎神マツハル

コンを叱っていた。
???

「マーベラスくん」

マーベラス

「香坂 連 どうした？」

香坂 連

「ちよつと分からない点があつて」

マーベラス

「どれ？ 見せてみな くん ころいつはヒラメキメデスとキタネイデスに相談だな」

香坂 連

「そうっすね」

マーベラス

「おいキタネイデス、ヒラメキメデス」

ヒラメキメデス

「？」

キタネイデス

「なんぞよ？」

マーベラス

「ちよつとこの案件何だが。」

マーベラスは炎神戦隊ゴーオンジャーゴーオンブルーの香坂 連に呼ばれデータを渡されキタネイデスとヒラメキメデスを呼んで相談していた。

香坂 連

「まさかあのガイアーク大臣と副大臣だった二人に再会するとは思ひもよらなかったですね」

炎神バスオン

『そうだな』

香坂 連

「バスオン！」

炎神バスオン

『オウオウ！蓮！マーベラスのお陰でまた連に会えたぜ！』

香坂 連

「そうっすねマーベラス君には感謝するっすが、こんな武器が必要なんすかね？」

マーベラス

「必要だ。」

香坂 連

「マーベラス君、コレが必要に成程の相手がいるんすか？」

マーベラス

「そつちに今データを送った」

マーベラスは香坂 連の「ゴーフォン」にデータを送信した。

香坂 連

「こ、こんな奴等とやりあつたんすか？」

マーベラス

「マガゼットン、マガバツサーの次は恐らく「マガジャツパ」か「マガグランドキング

「だどつちも強力すぎる」

香坂 連

「そうつすね」

マーベラス

「だからコイツ、神殺しの鉄槌」が必要だ（チラ」

炎神マツハルゴン

『いって』

炎神ベアール

『ああ、マツハルコンセンヤから無理はあかんって言ったやんけ』

炎神マツハルコン

『す、すまねえお袋』

マーベラス

「今はゴーカイオーしか頼れる奴しかいねえからな」

香坂 連

「そうっすね」

マーベラス

「まあ、今はこの初期版でやるしか無いがこの鉄槌を使ったらデータを送るしコイツに

合う炎神も必要だ」

香坂 連

「そうっすね。でも、この神殺しの鉄槌を完成させるにはまだ人手不足っす」

マーベラス

「まあ、人手不足は俺が何とかする」

香坂 連

「助かるっす」

マーベラス

「ちよつと『ウルトラマンガイア』と『ウルトラマンX』と『未来戦隊タイムレンジャー』の世界に行つてくる」

香坂 連

「オオ、その人達つて確かかなりのブレン系の人達つすね」

マーベラス

「そういう事だが、タイムレンジャーはちよつと面倒何だよな」（ウーン）

香坂 連

「確かにタイムレンジャーは難しいつすね」

マーベラス

「ま、海賊らしく拐つて行くか（シレ）」

香坂 連

「出来ればやめるつす（アセアセ）」

キタネイデス

「出来れば早く連れて来るぞよ」

ヒラメキメデス

「お願いしますね船長」

マーベラス

「分かってる」

ガチャン！

マーベラス

「じゃあゴークイガレオンの整備の方頼んだぞ」

香坂 連

「任せるっす！」

マーベラスは裏表だけがある扉にタイムレンジャーのレンジャーキーを差し込み回し扉を開けた先にはタイムレンジャー三十一世紀の世界に繋がっていた。

マーベラス

「じゃあ行ってくる」

バタン！

学校2

「リディアン学園／教室」

・立花 響

「うううマーベラスさくらん（ズーン）

・セレナ・ド・ファミーユ

「はい、マーベラスさん人形だよ」

立花 響

「ワイー！マーベラス人形だよ（ペア）」

ナビィ

『子供か（バシィ）』

立花 響

「アダー！」

セレナ・ド・ファミーユ

「あらナビィさんツツコミナイスでしたね」

ナビィ

『ほつといて、マーベラスが留守にしている間オイラが二人を見なきゃね』

セレナ・ド・ファミーユ

「ステルスはちゃんと機能しているようですね」

ナビィ

『まあ、あんまりオイラと話さない方がいいよオイラ見えないし一人言言ってるような感じだから控えてね』

セレナ・ド・ファミーユ

「分かったよ」

小日向 未来

「あ、あの響」

立花 響

「ムフウ〜マーベラスさ〜ん♪」

ナビィ

『聞く耳を持たないようだね（タラ）』

セレナ・ド・ファミーユ

「そのようね」（タラ）

小日向 未来

「ひ、響お願ひ話を聞いて！」

立花 響

「うるさい黙れマーベラスさん人形と話せないでしょ（ジド）」

小日向 未来

「う（ビク）」

立花 響

「♪マーベラスさん♪」

セレナ・ド・ファミーユ

「完全に重症ね」

ナビィ

『だね。マーベラスまだ帰って来れそうに無いからね』

セレナ・ド・ファミーユ

「魔王獣がまた現れる可能性があるから新しい武器をマシンワールドで作っているけどかなり苦戦していますね」

小日向 未来

「あ、あの」

セレナ・ド・ファミーユ

「？」

小日向 未来

「ファミーユさん響と仲が良さそうだったんで響とは」

キーンコーンカーンコーン！

セレナ・ド・ファミーユ

「その話はまた今度ね」

小日向 未来

「はい」

「放課後」

セレナ・ド・ファミーユ

「響、帰るわよ」

立花 響

「は〜い♪」

小日向 未来

「びび」

立花 響

「(ギロ!」

小日向 未来

「!? (ビク!」

立花 響

「セレナさん帰ろ」

セレナ・ド・ファミーユ

「そ、そうね。」

「対策本部／司令室」

男

「指令例の二人帰るようです」

風鳴 弦十郎

「そうか。出来れば話し合いをしたいところだが。」

男

「止めた方がいいですね。」

風鳴 弦十郎

「そうだなあのマーベラスが何故あの二人をリディアンに通わせたのかは不明だが接触は控えたほうがいいな」

男

「そう。ですね」

「商店街」

立花 響

「や〜つと終わった〜」

セレナ・ド・ファミーユ

「そうだね。ねえ、響」

立花 響

「はい?」

セレナ・ド・ファミーユ

「小日向 未来さんだっけ? いいの?」

立花 響

「はい、いいです (シレ)」

セレナ・ド・ファミーユ

「そう。」

ザワザワ

セレナ・ド・ファミーユ

「何だろ？」

立花 響

「あんなに人が集まってる。」

？カラオケLIVE？

セレナ・ド・ファミーユ

「へ〜カラオケLIVEオリジナルも可能採点が高い方豪華賞品プレゼントか。」

みる？」

立花 響

「え〜マーベラスさんいないのに出る意味無いですよ」

女

「じゃあ、私と出てみない？」

セレナ・ド・ファミーユ、立花 響

「誰？」

セレナと響の前に謎の女の人が見つけて来た。

キャンデリラ

「私の名前は、キャンデリラ。笑顔が売りよ♪キープスマイル♪」

マシンワールド2

「マシンワールド」

マーベラス、香坂連

「」

マーベラスと香坂 連はグロッキー状態であった。

男性

「大丈夫ですか？」

香坂 連

「シ、〃シオン〃先輩は平気なんすか？」

シオン

「はい、僕は平気ですよ」

マーベラス

「さ、流石は〃ハバ」ド星人〃余り睡眠しないとかわれてんだよな。俺達二三日徹夜でグロッキーなのにな。〃（鍛えてんのに（シヨックダ））

シオン

「そんな事無いですよ。あ、そうだマーベラスさん」

マーベラス

「何だ？」

シオン

「豪獣ドリルまだ修理に時間が掛かりますがマーベラスさんが見せたデータ豪獣ドリルの強化版に出来そうなんです」

マーベラス

「マジか!!」

香坂 連

「わ?!元気になったっす!?!」

マーベラス

「流石は豪獣ドリルの設計者で開発者だぜ!」

シオン

「いや、そんな大した事無いですよ」

マーベラス

「それに引き換え」

マーベラスの隣にもう二人グロッキー状態の二人の男性がいた。

「???、
???」

「あ、あ」

マーベラス

「ウルトラマンと一体化した筈の 高山 我夢 大空 大地 お前等が完全にグロツキーになってどうすんだよ？」

???

『全く情けないぞ二人共』

高山 我夢、大空 大地

「面目ない」

デバイザトから声を掛けられた。

マーベラス

「ウルトラマンX 偉そうにいつてるが神の鉄槌のサイバー回路とかちやんと確認とかしたんだろうな? (ジツ)」

ウルトラマンX

『あ、あ』

ガシツ!

マーベラス

「このデバイザー遠くに投げるかー？」

ウルトラマンX

『や、止めてくれー!?!』

大空 大地

「お、落ち着いて」

マーベラス

「嫌だったらさつきと自分の仕事しろよな！」 ↑徹夜続きの為かなり苛立っていた。

ウルトラマンX

『は、ハイハイイイ!! (パ)』

???

「フフ、マーベラスの前ではXは頭が上がりんな♪」

マーベラス

「フアントン星人グルマン博士」

マーベラスの前にフアントン星人グルマン博士が声を掛けてきた。

グルマン博士

「いきなりワシと大地の前に現れてこんな神の鉄槌とやらを作り上げる為にワシ等を連れ出したんじゃないかな」

マーベラス

「俺だけじゃ完成させるのは無理だからな」

キタネイデス

「その通りぞよ」

ヒラメキメデス

「この鉄槌の完成は我々の悲願でもありますからね」

ヨゴシユタイン

「それにしてもかつて我が作り上げた『ハンマーバンク』のデータが必要になるとは思
いもよらなかつたなり」

香坂 連

「確かにそうっすね」

・マーベラス

「」

・バエ

「響さん達が心配ですか？」

マーベラス

「かなりな」

バエ

「おやおや素直ですね〜」

マーベラス

「彼奴等何しでかすか分からんがトリの占いでわざわざ大凶のクラスにさせたから何かしら問題をおこすだろうな」（ハア〜）」

バエ

「まあ、確かに特にセレナさん調子に乗って全金寄付してないかかなり心配ですね（ハハ）」

マーベラス

「ああ（ドズ〜ン）↑超かなり不安

バエ

「まあ、ナビイさんを向こうに置いて来てますから大丈夫じゃないでしょうか?」

マーベラス

「そうだがハア〜不安すぎる」

共演 1

「公園／ホール」

キャンデリラ

「それで貴方達私と歌わないストレス発散にもいいし」

立花 響

「でも、マーベラスさんいないし」

セレナ・ド・ファミーユ

「まあ偶にはいいじゃない響溜まったストレスを発散しようよ」

立花 響

「マーベラスさんに連絡します」

プルル

ピ!

マーベラス

『何だ?』

立花 響

「マーベラスさん」

マーベラス

『響か、どうした？』

立花 響

「実は」

響はマーベラスに事情を話した

マーベラス

『ふうん、ちよつとそいつと話させろテレビ通話に変えろ』

立花 響

「あ、ハイ」

マーベラス

『』

キャンデリラ

「初めまして！私キャンデリラと申しますキープスマイル♪」

マーベラス

『お前人間じゃないだろ？』

立花 響、セレナ・ド・ファミーユ

「え？」

キャンデリラ

「あら？分かつちやった？」

マーベラス

『セレナ、 “ネクサス” キー使い範囲は狭くな』

セレナ・ド・ファミーユ

「あ、ハイ」

ガチャン！

ゴーカイガン

？ファ〜イナル！ウエ〜ブ!?

セレナ・ド・ファミーユ

「ほいっと」

ドン！

パアアアア！

セレナのゴーカイガンに “ウルトラマンネクサス” キーを差し込み上空に撃ち込み
セレナ達の周りを光のドームが包み込んだ。

キャンデリラ

「あら、気が利くわね♪（パア！）」

キャンデリラはマーベラス達の前に元の姿になった。

マーベラス

『それがお前の本当の姿か？』

キャンデリラ

「そうよお、元デーボス軍喜びの戦騎キャンデリラ！美貌の秘訣は笑顔！キープスマイリングよ〜！」（パア〜！）」

セレナ・ド・ワアミーユ、立花 響

「（ま、眩しい）」

マーベラス

『で、その元デーボス軍喜びの戦騎キャンデリラは何でこの地球に』

キャンデリラ

「実はね。」

キャンデリラから「獣電戦隊キョウリュウジャー」の事を聞いたが

香坂 連

『獣電戦隊キョウリュウジャー!?新しい戦隊つすか!?』

マーベラス

『グエ!? (グシャ!)』

グググ↑何とか起き上がろうとするマーベラス

シオン

『僕の新しい後輩だ!』

マーベラス

『グエエ!? (グシャ!)』

立花 響

「お、お二人共マーベラスさん踏み付けてますよ!?!」

シオン、香坂 連

『あ・(パ)』

マトベラス

『(ムクリ)次はねえからな(ピキピキ)』

シオン、香坂 連

『は、はい(ガタガタ!)』

マーベラス

『たくっ!一応獣電戦隊キョウリュウジャーの記録は後で見せてもらおうじゃあこつもそろそろ作業に戻らせてもらおうぜ』

立花 響

「マーベラスさん」

マーベラス

「一応そつちにマスターゴリーと付き添いで宇崎 ランを呼んどいた」

立花 響

「ありがとうございます」

マーベラス

『じゃあ後は頼むぜセレナ、響、キャンデリラ』

立花 響、セレナ・ド・ファミーユ、キャンデリラ

「「はい」（はい）」

ブツ！

セレナ・ド・ファミーユ

「じゃあ、まずは歌の練習と振り付けの練習だよ」

立花 響

「はい。キャンデリラさんの歌を歌うんですか？」

キャンデリラ

「ああ、それはね♪」

セレナ・ド・ファミーユ

「あ、それ、子供も一緒に踊れますね」

立花 響

「あの、アバレンジャーも駄目ですか？」

■キャンデリラ

「■■■■いいわねコレ採用！」

■立花 響

「良かった」

さてさてどうなることやら

ゴリラ？

「フムフムこの地球のバナナは少し私達の地球と比べたら少し劣るな」

女

「〃マスタートゴリー・イエン〃 私達が此処に来た目的忘れないで下さいね」

マスタートゴリー・イエン

「分かっているよ 宇崎 ラン〃。マーベラスが立花 響君の前になければまた暴走する恐れがあるからね」

宇崎 ラン

「そうですね。まあ、暴走の件は置いてくとしてマーベラスが態々私達の地球に来て私とマスターゴリーを指名したのはいいけど」

マスターゴリー・イエーン

「私を人間の姿にさせるとはそこまでする必要があるかな？」

ゴリー・イエーンの人間姿は“NARUTO薬師カブト”の姿です

宇崎 ラン

「ありますよ。私達はなれてますけど他の人達なれてませんからね」

マスターゴリー・イエーン

「言われてみればそうだね久しぶりに響君達に会うのは楽しみだね」

宇崎 ラン

「そうですね」

マシンワールド3

「マシンワールド」

???

『ボンボン。マーベラス』

マーベラス

「『ボンパー』 どうした？」

作業していたマーベラスに声を掛けてきたのは炎神戦隊ゴーオンジャーサポートメカボンパーである。

ボンパー

『そろそろ休憩時間だよ』

マーベラス

「もうそんな時間かシオン、連、大地、我夢メシ食いに行こうぜ」

シオン

「そうですね」

香坂 連

「で、何処に行くつすか？」

マーベラス

「爆竜戦隊アバレンジャー」世界の「恐竜屋」だ」

シオン

「爆竜戦隊アバレンジャーって確か「邪命体エヴォリアン」を倒したあのアバレンジャーですよ？」

マーベラス

「そうだアバレンジャーが拠点にしてたのがその恐竜屋だ」

シオン

「成程」

高山 我夢

「その恐竜屋に行く理由は？」

マーベラス

「恐竜屋が出来て20周年になるらしいからあの店の常連として祝金と
を渡してやろうと思ってな」

.....

オーナーに花

グルマン博士

「ワシも行ってもいいかの？」

マーベラス

「良いぞ」

大空 大地

「あれ？グルマン博士とガイアーク組変装させないの？」

マーベラス

「行けば分かる」

？爆竜戦隊アバレンジャーの地球？

ワー！ワー！

キヤー！キヤー！

全員（グルマン博士以外）

大空 大地

「グルマン博士に何で変装させなかった理由分かったよ」

子供！

「凄いフアントン星人だ！」

女1

「写真撮ってもいいですか!？」

グルマン博士

「？」

「え、えくと構わんぞ。」

マーベラス

「。」

「初めての事で困惑してるな。」

大空 大地

「。」

「何でこの地球の人達グルマン博士見て平気なの?」

マーベラス

「邪命体エヴォリアンの幹部 “創造の使徒ミケラ” と “無限の使徒ヴォツファ” が。」

マーベラスは創造の使徒ミケラと無限の使徒ヴォツファが地球に来た時の話をした。

マーベラス

「で、ミケラとヴォツファを撮ってた人がめちやくちや宇宙人と異世界人達と交流しましょう会つてのを作り上げたんだよ」

大空 大地

「成程だから宇宙人であるグルマン博士あんなにモテてるんだ」

ワーワー!

キヤーキヤー!

グルマン博士

「だ、大地助けてくれ〜（アセアセ）」

ピピー!

スペシャルポリス

「は〜い皆さん写真撮影はいいですがそのフアントン星人困ってますので〜」

男

「あ、それもそうだついつい宇宙人に会ったから熱くなつてた〜」

女

「そうね、フアントン星人さんにだつて予定があるからね」

マーベラス

「余り騒がし過ぎたらああやってスペシャルポリスが止めに入ってくれるんだよ」

香坂 連

「成程つすそれにしても理解力凄いつすねアバレンジャー世界は」

大空 大地

「そうだね僕達の地球もこんな世界になったらどれだけいいか」

高山 我夢

「大地君」

マーベラス

「ん？あのスペシャルポリスよく見たら、胡堂、小梅、じゃねえか」

香坂 連

「あ、本当っすね」

胡堂 小梅

「ん？あー！宇宙海賊マーベラスと香坂 連君とシオン先輩じゃない久しぶり〜」

シオン

「お久しぶりです小梅さん」

香坂 連

「小梅先輩お久しぶりっす」

スペシャルポリス2

「やあやあ、久しぶりだね〜」

マーベラス

「江成 仙一」 そうですねば胡堂 小梅じゃなく、江成 小梅、だったな」

マーベラス達の前に、特捜戦隊デカレンジャー、デカグリーン、江成 仙一と、

デカピンク、江成 小梅が現れた。

香坂 連

「そういえばそうだったすねお二人共ご結婚されたんすよね」

江成 仙一

「そうだよーマーベラスはどうしてアバレンジャーの地球に？」

マーベラス

「恐竜屋が20周年になるらしいから祝ってやろうと思つてな」

江成 小梅

「あ、成程マーベラス君カレー好きだっただからね特にアバレンジャーの地球恐竜屋カレー」

マーベラス

「たりめーだ恐竜屋の親っさんのカレーはマジで美味かつたんだがな」

江成 仙一

「俺も恐竜屋に行きたいけどまだ仕事があるからなくマーベラス君悪いんだけど俺達に分まで祝つててくれないかな？」

マーベラス

「構わねえよ」

ドドドドド

全員

『ん?』

ワニ?

「待てー! 食い逃げー! (ドドド!)」

高山 我夢

「え!?! 食い逃げ!?!」

マーベラス

「あれ “ヤツデンワニ” じゃねえか」

香坂 連

「あ、本当っすね」

シオン

「食い逃げ犯のあれは . . . ?」

マーベラス

「知らね (チラ)」

ガイアーク組、バエ

『知らない』

マーベラス達は “元邪命体エヴォリアントリノイド12号ヤツデンワニ” が追い掛

けていた人物？を見て全員に聞いたが誰も知らなかった。
???

「アンラツキュー!?! 助けてーキャンデリラ様〜（ワ〜ン！ドドド）」

キャンデリラ知ってる組

「「ん？キャンデリラ？」」

キャンデリラ知らない組

『キャンデリラって誰？』

香坂 連

「何であいつキャンデリラの事を知ってるつすか？」

ヤツデンワニ

「あ！マーベラス君悪いんだけどそいつ捕まえてー！」

マーベラス

「仕方ねえ（ポイ）」

パラパラ

高山 我夢

「あれって。」

香坂 連

「マキビシっすね」

フミ！

???

「アイター!? イタイイタイ!? な、何か足の裏に刺さったっキュウ（ガシイ!）」

マーベラス

「おしく捕まえた〜♪」

???

「しまった捕まっちゃったキュウ（泣）」

香坂 連

「マ、マーベラス君何でマキビシ持ってたっす?」

マーベラス

「『忍者戦隊カクレンジャー』と『忍風戦隊ハリケンジャー』と修行してた時色々忍道具作つたこのマキビシもその一つだ」

香坂 連

「はえ〜凄いつすね」

ヤツデンワニ

「べ、ベルベルひ、久しぶりだベルねマ、マーベラス」

マーベラス

「おう、久しぶりだなヤツデンワニ（ギリギリ!）」

???

「アンラツギユ〜!?! チョ、チョットプ、プロレス技かけないでよー!?!（バシバシ）」↑現在
コブラツイスト技を掛けている

マーベラス

「食い逃げ犯が何を言っつてやがる（ギリギリ）」

ヤツデンワニ

「捕まえてくれて感謝するよ」

マーベラス

「気にすんな恐竜屋はまだ営業中か?」

ヤツデンワニ

「まだまだ大丈夫だよ」

マーベラス

「じゃあ食べに行くがいいか」

ヤツデンワニ

「いいよ〜アレ?」

マーベラス

「どうした？」

ヤツデンワニ

「セレナちゃん達は」

マーベラス

「ああ、響と一緒に学校に通ってもらった」

ヤツデンワニ

「え？どうして？」

マーベラス

「響の治療だ」

ヤツデンワニ

「荒療治って奴だねどうせなら連れて来てよ久しぶりに響ちゃん達に会いたい」

マーベラス

「分かったがおいお前」

???

「な、何ですか（ギリギリ！）」↑まだ、プロレス技を掛けている。因みにスリーパーホー

ルド中

マーベラス

「お前キャンデリラって奴の事を知ってるのか？」

???

「ええ!?!何でキャンデリラ様の事を知ってるの!?(ゲホゲホッ!)」↑プロレス技から開放された。

マーベラス

「俺の仲間と一緒にいるから今から行くぞ」

???

「やったーラツキー!早くキャンデリラ様のところに行こうよ!」

マーベラス

「分かった分かった。そういえばお前の名前は？」

ラツキューロ

「あ、そういえば名のとって無かったね僕は。ラツキューロ!キャンデリラ様の直属の部下で、楽しみの密偵だよ!」

マーベラス

「俺は宇宙海賊キャプテンマーベラスだ」

香坂 連

「俺は炎神戦隊ゴーオンジャーのゴーオンブルー香坂 連つす」

シオン

「僕はシオンです」

高山 我夢

「僕は高山 我夢だよ」

大空 大地

「俺は大空 大地」

江成 仙一

「俺は江成 仙一だけど（ガチャン！）」

ラツキューロ

「アンラツキュー!?手錠!?何でー!?」

江成 仙一

「いや、食い逃げ犯だから警察として逮捕したただけだよ」

ラツキューロ、江成 仙一以外

『正しい』

マーベラス

「何でお前も納得してんだよ小梅警察官だろ?」

江成 小梅

「うっ!? (グサツ!)」

マーベラス

「おい、仙一警察官として正しいが一応自己紹介まだ途中だがコイツにはキャンデリラと再開した後恐竜屋で食ったぶん働いてもらうから「エ」何だよ?」

ラツキユーロ

「い、いえ。」

マーベラス

「ヤツデンワニもそれでいいだろ?」

ヤツデンワニ

「まあ、マーベラスが言うのなら。」

江成 仙一

「まあ、恐竜屋のオーナーがそこまで言うなら (ガチャ!)」

ラツキユーロ

「やったーかい (ガチャ!)」

マーベラス

「あくまで仮だキャンデリラと会わせたら恐竜屋で働いてもらうからな調子乗るな (ゴ

リリ！」

ラツキューロ

「ふ、ふあい。」

マーベラスはラツキューロにゴーカイガンをラツキューロの顔に押し付けた。

マーベラス

「まあ、粗方自己紹介は全員すんだしヤツデンワニ恐竜屋の案内頼めるか？」

ヤツデンワニ

「ベルベルお安い御用べる〜」

マーベラス

「じゃあ行くぞラツキューロ」

ラツキューロ

「は〜いキャンデリラ様に会えるぞ〜♪」

マーベラスとラツキューロはヤツデンワニ達と別れた。

合流 1

「響がいる世界」

？ 街道？

ラツキューロ

「へへマーベラスキョウリユウジャー知らないんだく以外だね」

マーベラス

「俺達の先の戦隊はまだ知らねえよだがキョウリユウジャーの事聞いてたらラツキューロお前微妙に馬鹿の苦勞人だったんだな」

ラツキューロ

「馬鹿は酷い!?!」

マーベラス

「事実だろ?」

マーベラスはラツキューロを連れて響達の世界に戻り響達と合流しようとした。ラツキューロは人間に化けている（人間姿はONE PIECEモモの助大人版です）ラツキューロ

「それにしてもこんなにも早くキャンデリラ様と合流出来るなんて思っても見なかった」

マーベラス

「まあ、異空間の旅してんだ何が起こるかわからん何処で離れ離れになるのか分からねえからな」

ラツキユーロ

「確かにマーベラス達は宇宙の旅かいいなあゝ」

マーベラス

「じゃあ俺の仲間になるか？」

ラツキユーロ

「えー！本当!？」

マーベラス

「その前に恐竜屋の食い逃げ金を働いてからだがな」

ラツキユーロ

「ウグツ!?! 覚えてたのねえ」

マーベラス

「当たり前だろうが（フツ（ラツキユーロの馬鹿面見ると響を思い出しやすいな）」

ラツキューロ

「それでキャンデリラ様達は何処にいるの？」

マーベラス

「ちよつと待つてろちよつと前に公園にいるって聞いてたが移動してるかもしてるかもしれないねえ」

プルル

ナビィ

『あゝいマーベラスどつたの？』

マーベラス

「お前等まだ公園にいるのか？」

ナビィ

『うん公園にいるよ響達決勝戦までいつちやった』

マーベラス

「マジか」

ナビィ

『マジマジキャンデリラがすっかり教えてくれたお陰で決勝進出したんだ』

マーベラス

「そうか。聞いてる限り響の様子は大丈夫そうだな」

ナビィ

『今はね。』

マーベラス

「今は、そうか小日向 未来に災会したか」 ↑注：災の時は誤字ではありません。

ナビィ

『そうだよ』

マーベラス

「そ」

バキィィィン!!

マーベラスが電話中にマーベラスを含め周りにいた人達が氷漬けになってしまった。

?公園?

ブツ!

ナビィ

『あれ?マーベラス?マーベラス?』

セレナ・ド・ファミーユ

「ナビィどうしたの？」

ナビィ

『今マーベラスから連絡があつてこっちに戻つてゐるみたい何だけど
』

セレナ・ド・ファミーユ

「え!? マーベラスさん帰つて来たの!？」

ナビィ

『うん、そうなんだけど通話中に切れちゃつた』

セレナ・ド・ファミーユ

「切れた? マーベラスさんに何かあつたんじゃ
」

ナビィ

『ん〜今マーベラスの事言つたら彼処で今キャンデリラと楽しく話している響が痾癩起

こしちやうからね』

ワイワイ

キャンデリラ

「キープスマイルよ響ちゃん♪」

立花 響

「はい♪」

セレナ・ド・ファミーユ

「そうだね」

???

「久しぶりねセレナちゃん、ナビイ」

セレナ・ド・ファミーユ、ナビイ

「『ん？あ、宇崎 ラン！（さん！）』」

???

「やあ、君達元気そうだね（モグモグ）」

・セレナ・ド・ファミーユ

・もしかしてそのバナナの食べ方はゴリー・イエン？」

・ゴリー・イエン

「ウム、私が何故人間の姿になっているのはマーベラス君が直接来て人間姿にさせてもらったのだ」

人間姿はNARUTO薬師カブトです。

宇崎 ラン

「ところでどうしたの?」

ナビィ

『実はさつきまでマーベラスと話してただけで途中で切れちゃった。オイラマーベラスが心配だから見に』

ヒユウウウウウ!

ナビィがマーベラスの事を話していた途中に何か落ちて来る音がした。

セレナ・ド・ファミーユ

「なんの」

ナビィ

『お』

立花 響

「アレってまさか」

ナビィ

『イ』

セレナ・ド・ファミーユ

「イン」

立花 響

「セキ!? 何で!？」

キャンデリラ

「皆伏せなさい!？」

ズドドドドオオオオン!!

? 水道?

天羽 奏

「な、何で今温かい四季の筈なのに氷漬けになってんだ

ズドドドドオオオオン!!

天羽 奏

「こ、今度は何だよ何なんだよ。訳分かんねえよくん? この氷の中に人がいるじゃ
奏は氷の中に人がいるのに驚いたが見回して見たらなんとその中には!

・マーベラス

「」

・天羽 奏

「マ、マーベラス何で氷の中に!？」

奏が見回した先に氷漬けのマーベラスがいた。

合流2

「水道」

・マーベラス

「」

・天羽 奏

「マ、マーベラス何で氷漬けになってんだよ」

奏は氷漬けになっていて人達がいたがその中にはマーベラスもいた。

???

「それは俺の仕業だ」

天羽 奏

「え？」

奏の前に氷型の熊らしき怪物が現れた。

氷熊？

「この俺の能力でこの辺一帯を氷漬けにしてやった」

天羽 奏

「お、お前が。お、お前は一体。」

氷熊？

「これから死ぬ奴には知る必要はない死ぬ！」

ゴークカイガン

？フア〜イナルウエ〜ブ！（ズドオン!）

氷熊？

「グハア!？」

天羽 奏

「」

氷熊は奏を殺そうとしたが氷熊に何か当たり氷熊は吹っ飛んだ。

マーベラス

「あくいきなり氷漬けにされるとは驚いたぜ」

ラツキユーロ

「ハックシユン！（ガチガチ!）」

マーベラス

「全く、ウルトラマンタロウのウルトラマンキーが無かったら凍死してたぞ」

ラツキユーロ

「ハア、参った参った。ってアー!?お前は『デーボ・ヒョウガツキー』!?何でこの地球に!?!」

デーボ・ヒョウガツキー

「ん?誰だ貴様何故俺の名を知っている?」

ラツキューロ

「え!?!僕を知らないの!?!(パツ!」

デーボ・ヒョウガツキー

「誰だ?」

ラツキューロ

「ええ!?!これでも分からないの!?!僕元デーボス軍の楽しみの密偵ラツキューロ」

マーベラス

「あ、おいバカ」

デーボ・ヒョウガツキー?

「楽しみの密偵ラツキューロ」

ラツキューロ

「え?」

デーボ・ヒョウガツキー

「まさか貴様デーボス軍を裏切ったラツキューロか!？」

ラツキューロ

「あ!？」

デーボ・ヒヨウガツキー

「裏切り者め俺が今此処で始末してやる!」

デーボ・ヒヨウガツキーはラツキューロに襲い掛かろうとしたが

ドドン!

マーベラスがゴーカイガンでデーボ・ヒヨウガツキーを撃った。

マーベラス

「デーボス軍を裏切ったラツキューロの名前を出したら襲われるに決まってるだろうが」

ラツキューロ

「ご、ごめん(ポリポリ)」

デーボ・ヒヨウガツキー

「何だ貴様!」

マーベラス

「俺か巷で噂の宇宙海賊だ」

デーボ・ヒョウガツキー

「宇宙海賊？その海賊マークまさかあのウルトラマンベリアルを倒したあの宇宙海賊か
!?!」

マーベラス

「倒したのは“ウルトラマン” “ウルトラセブン” “ウルトラマンメビウス” “レオ兄
弟” “ウルトラマンゼロ” “ZAP” との共闘で倒せただけだな。それと悪いが
ラツキューロは誰にもやらせる訳にはいかねえよ彼奴と会わせなきやならねえからな」

デーボ・ヒョウガツキー

「ならば再び氷漬けになれ！」

マーベラス

「海賊に同じ手に掛かる訳ないだろ」

ガチャン！

ゴークイガン

？フア〜イナル！ウエ〜イブ!?

ズドオオオオオオン！

デーボ・ヒョウガツキー

「な、何だー!!? (ビュ〜ン!!)」

マーベラス

「おゝ飛んだ〜」

マーベラスは「星獣戦隊ギンガマン」のレンジャーキーをゴークイガンを差し込みマーベラスはゴークイガンをデーボ・ヒョウガツキーに当ててデーボ・ヒョウガツキーは吹っ飛んだ。

マーベラス

「流石は星獣戦隊ギンガマン風使いのギンガグリーン風の風だな」

ラツキューロ

「マーベラス、あの方向ってキャンデリラ様達がいる公園じゃあ」

・マーベラス

「彼奴等なら何とかするだろ」

・ラツキューロ

「ええ?!大丈夫なのあの娘達!?!」

マーベラス

「海賊の看板背負ってんだ負けはしねえだろ。それより」

ラツキューロ

「それより?」

マーベラス

「この氷り溶かさないとな」

ラツキキューロ

「あ、そつかでもどうやって溶かすの？」

マーベラス

「このレンジャーキーを使う」

カチツッ!

マーベラス

「ゴーカイチェンジ！」

モバイレーツ

「? ゴーカイジャー!？」

ゴーカイレッツド

「ゴーカイレッツド」

ラツキキューロ

「わくそれが海賊戦隊ゴーカイジャー？」

ゴーカイレッツド

「そうだ更にこのレンジャーキーを使う」

カチッ!

ゴーカイレッド

「ゴーカイチェンジ!」

モバイレーツ

?アーバレンジャー!?

アバレブラック

「無敵の竜人魂アバレブラック!」

ラツキューロ

「わっ!変わった!」

天羽 奏

「また、知らないのに変わった」

アバレブラック

「アレ?天羽 奏いたの?」

天羽 奏

「今更!?!」

アバレブラック

「まあ、天羽が何でいるかなんでどうでもいいか」

天羽 奏

「酷!？」

ラツキユーロ

「で、話は戻すけどどうするの？」

アバレブラツク

「見てな ッダイノスラスター」

ガキイ!

アバレブラツク

「ッファイヤーインフェルノ」!

ボオオオオオ!

ラツキユーロ

「オオ! 凄い氷がどんどん溶けていつてる!？」

マーベラスはゴーカイレッドになり次に「爆竜戦隊アバレンジャー」アバレブラツクになりダイノスラスターファイヤーインフェルノで氷った道や氷った建物を溶かした。

アバレブラツク

「よっしや溶け」

ラツキユーロ

「どうしたのマーベラス？」

アバレブラツク

「ん〜何か分からんがノイズが出て来てやがる」

マーベラスに言われ周りを見回したらノイズが現れていた。

天羽 奏

「な、何でノイズが現れたのに警報が鳴らないんだ!？」

ピピピ

ゴーカイレッド

「何か隕石と氷漬けがあったせいで災害警報がマヒしちゃったようだ」

天羽 奏

「そ、そんな!？」

ラツキユーロ

「ねえねえ、マーベラスあれ何？」

ゴーカイレッド

「人間を灰にさせるのが趣味のノイズって化物だつてよ」

ラツキユーロ

「へく要するにデーボス軍でいえば『ゾーリ魔』位かな?」

ゴーカイレッド

「いや、それ以下の雑魚共(ガチャン!)」

ゴーカイガン

? ファーイナル! ウエーイブ!?

ズドオオオオオン!

ノイズ達

『!!!?』

ゴーカイレッド

「な、雑魚すぎだろ?」

ラツキユーロ

「そうだね」

アバレブラックからゴーカイレッドに戻ったゴーカイレッドはモバイルーツで情報を集めて氷漬けになる前に何があったか調べラツキユーロにノイズの説明をしながらゴーカイガンにレンジャーキーを差し込みチャージしそのままノイズ達目掛けて撃ちノイズ達は爆散したがまだノイズ達が残っていた。

ゴーカイレッド

「おい、ラツキユーロ、天羽 奏」

ラツキユーロ

「なあに？」

天羽 奏

「？」

ゴーカイレッド

「お前等今すぐゴイツを使ってあの足手纏の奴等を逃しといてくれないか？」

ラツキユーロ

「ええ!?!何で!?!」

天羽 奏

「!?!」

ゴーカイレッド

「あの足手纏の奴等を庇いながら戦うのは無理だから変身してあの足手纏達を逃しといてくれないか？」

ラツキユーロ

「うゝん上手くできるかどうかやって見るかー！一度戦隊に変身したかったんだよね」

ゴーカイレッド

「ほらよやり方は分かるな」

ラッキューロ

「うん♪でもマーベラスも一緒にやろうよ♪」

マーベラス

「ん〜いいぞ」

ゴーカイレッドは変身解除した。

マーベラス

「で、お前はとうする天羽」

天羽 奏!

「どうって。」

マーベラス

「戦うかそれとも天羽 奏という人間を何人か作り上げるか？」

天羽 奏

「どういう意味だよ」

マーベラス

「お前の事調べたからなノイズに家族を殺されたんだろ？」

天羽 奏

「!?」

マーベラス

「もしあの足手纏の中から生き残りがいた場合ノイズの復讐鬼にさせるつもりか？」

・天羽 奏

「」

・マーベラス

「ちげえだろ？少しでも多くの復讐鬼を減らさなきゃならねえんじやねえのか？」

・天羽 奏

「」
「そのモバイレーツとやらを使ったらアタシ復讐鬼を減らせんのか？」

・マーベラス

「それはテメエしだいだろ？（スツ）」

マーベラスはモバイレーツを天羽 奏の前に差し出した。

・天羽 奏

「」
「アタシやるよノイズの被害者を減らせんなら海賊だろうが何でもなつてやるよ！」

・ラツキユーロ

「よーし！やろうマーベラス！」

マーベラス

「よっしゃー！」

カチ×3

マーベラス

「派手に行くぜ！」

マーベラス、天羽 奏、ラッキューロ

「「「ゴーカイチェンジ!!!」」」

モバイレーツ×3

? ゴーカイジャー
!!!?

ゴーカイレッド

「ゴーカイレッド！」

ゴーカイブルー

「ゴーカイブルー！」

ゴーカイグリーン

「ゴーカイグリーン！」

ゴーカイレッド

「海賊戦隊」

ゴーカイレッド、ゴーカイブルー、ゴーカイグリーン

「「「ゴーカイジャー!!!」」」

ゴーカイレッド

「派手「荒れるぞー!止めてみな!」お前まで俺のセリフを取るか!」